

令和 4 年度 吉備国際大学
研究部門自己点検・自己評価報告書

目 次

第1部 学内共同研究	
共同研究費採択課題 抄録	3
第2部 各研究所・センター	
各研究所・センター 抄録	15
第3部 SDGs教育研究推進	
SDGs教育研究推進経費採択課題 抄録	25
第4部 地域貢献教育研究推進	
地域貢献教育研究推進経費採択課題 抄録	29
第5部 研究実績	33
第6部 科学研究費助成事業及び補助、助成、受託、寄附、共同研究 ...	63
第7部 点検・評価結果	77

第1部

学内共同研究

- ① 保育者による受容を促す統合的な効力感向上プログラムの実践開発
社会科学部 准教授 秀 真一郎
- ② 戦間期地域社会教育は職業教育にいかに関与したか
ー中国地方を中心とした検証
社会科学部 講師 倉知 典弘
- ③ マルトリートメント体験に起因する更年期症状の発見のための
アセスメントツールの開発
保健医療福祉学部 准教授 福岡 美和
- ④ 薬剤性筋萎縮抑制に対する保存療法(理学療法)の検討
～筋収縮運動および血流抑制によるマイオカイン発現と
薬剤性筋萎縮抑制効果の検証～
保健医療福祉学部 准教授 中嶋 正明
- ⑤ γ -アミノ酪酸(GABA)は種子休眠に影響するか
農学部 准教授 氷見 英子

保育者による受容を促す統合的な効力感向上プログラムの実践開発

秀 真一郎

吉備国際大学、社会科学部
経営社会学科

本研究では、対象現職保育者を、支援プログラムを実施した実験群と実施していない統制群とし、保育者による受容に関わる効力感(以下、保育者受容効力感とする)を測定し、支援プログラムの効果を検証した。その結果、実験群の保育者受容効力感が、「研修前(支援プログラム開始前)」に比べ、「セルフモニタリングによる実践後(支援プログラム終了時)」、及び「追跡(支援プログラム終了1か月後)」において有意に上昇したことが明らかとなった。また、セルフモニタリングによる実践後と追跡との間に有意な差はなく、支援プログラムの確かな持続効果が確認され、その有効性が裏付けられた。

キーワード：保育者による受容、保育者受容効力感、支援プログラム

I. 支援プログラムの効果を検証する視点

本研究では、新たに開発した支援プログラムを実施し、その効果を検証することを目的とする。本支援プログラムは、短時間の研修と1か月間のセルフモニタリングによる実践により、保育者受容効力感を高め、その後も効果が持続することを目指した。具体的には、自らの保育者による受容を振り返り、「できた」点という肯定的な視点から捉え直すことで、保育実践へ繋げることが習慣化することを目指した。

本研究における仮説は、①本支援プログラムの実施により保育者受容効力感が向上する(実施効果)、及び、②実施後から、さらに1か月後の追跡においても保育者受容効力感はその水準を維持する(持続効果)、の2点である。

II. 方法

1. 調査対象及び時期

支援プログラムへの参加者は、A 県内の幼保

連携型認定こども園における園内研修への参加者29名(実験群候補)である。全調査の実施期間は、2021年10月から12月であった。調査は、支援プログラムを軸とした一連の流れの中で、質問紙調査を実施した。質問紙調査の実施は、支援プログラムを実施する研修前(第1回)、園内研修時(第2回)、支援プログラムにおけるセルフモニタリングによる実践後(第3回)、追跡(第4回)の計4回設定した。

これらの調査の実施間隔に合わせ、同県内の保育所4園へ調査の協力を依頼し、回答を求めた。ただし、第2回(園内研修時)にあたる質問紙調査は実施していない。全てに回答を得られた63名を統制群候補とした。

2. 調査内容

保育者受容効力感尺度:秀・横松・西山(2022)による20項目である。教示文として、「あなたは「保育者による受容」に関わる 次の1~20までの内容に対して どの程度の自信(できそうだという気持ち)がありますか。ご自分に最も当てはまる数字に○印を付けてください」と示した。回答は「非常に自信がある」「かなり自信がある」「やや自信がある」「どちらともいえない」「やや自信がない」「かなり自信がない」「全く自信がない」とし、小さな変化も捉えやすいよう7段階評価(7~1点)で得点化した。

調査対象である参加者には倫理的配慮として、研究への参加は任意であること、同意書に署名のあったデータのみを取り扱うこと、途中辞退での不利益は生じないこと等を口頭と文書にて説明した。なお本研究の実施にあたり、岡山大学大学院教育学研究科研究倫理委員会の審査を受け、承認を得ている(課題番号17, 2021(令和3)年8月18日)。

III. 結果と考察

1. 群設定と基礎統計量の確認

実験群候補29名の内、追跡を含め質問紙の返信が1度でもなかった者を除き、同意が得られた中から最終的に21名を実験群とした。実験群の保育経験年数の±3年、及び研修前(基準値)における保育者受容効力感尺度総得点の±1標準偏差の範囲内を目安に、統制群候補63名とマッチングを行い、統制群21名を設定した。

実験群は、平均年齢33.05歳(標準偏差10.38)、保育経験年数の平均10.04年(標準偏差7.84)

であった。統制群は、平均年齢 32.24 歳（標準偏差 9.52）、保育経験年数の平均 9.71 年（標準偏差 7.75）であった。両群の年齢、保育経験年数、及び保育者受容効力感尺度の変数に有意な差はなく、これらの点から研修前の段階で、実験群と統制群は同質といえる（ t 値は順に、 $t_{(40)} = .36, -.55, 1.20, -.25$, 全て $n.s.$ ）。独立変数は群（被験者間要因）と時期（被験者内要因）である。

2. 保育者受容効力感への効果

本支援プログラムの実施による保育者受容効力感への効果を検討するため、群（実験群、統制群）×時期（研修前、セルフモニタリングによる実践後、追跡）の混合計画による 2 要因分散分析を行った。その結果、時期の主効果は有意ではなく、交互作用が有意であった（順に、 $F_{(1,40)} = .92, n.s.$; $11.18, p < .01$ ）。水準別誤差項を用いた方法により（以下、全て同じ）、先ず群の単純主効果を検定したところ、研修前、セルフモニタリングによる実践後、追跡において、いずれも有意ではなかった（順に、 $F_{(1,40)} = 1.46, 2.11, 2.68$ いずれも $n.s.$ ）。次に時期の単純主効果を検定したところ、実験群が有意であり（ $F_{(2,80)} = 9.23, p < .01$ ）、統制群は有意ではなかった（ $F_{(2,80)} = 2.87, n.s.$ ）。Bonferroni 法を用いた多重比較の結果（以下、多重比較は全て同じ）、実験群では、研修前と比較してセルフモニタリングによる実践後、追跡が有意に高かった（ $MS_e = 75.24, 130.22$, いずれも $p < .01$ ）。

このことは、保育者による受容に働き掛ける一連の支援プログラムを経験したことで、保育者受容効力感が向上することを示している。また、セルフモニタリングによる実践後と追跡との間には有意な差はなかった。このことから、支援プログラムを経験した 1 か月後においても、向上した保育者受容効力感は維持されているといえる。（実験群及び統制群の保育者効力感の推移を折れ線グラフで可視化し、図 1 に示す。）

実験群に対して、研修時を含めた 4 つの時期について 1 要因の分散分析を施したところ、有意であった（ $F_{(3,18)} = 3.49, p < .05$ ）。多重比較の結果、研修前と比較して、セルフモニタリングによる実践後及び追跡では明らかに効力感が上昇していた（ $MS_e = 94.31, p < .01$ ）。研修前と研修時との間には、保育者受容効力感に有意な差は

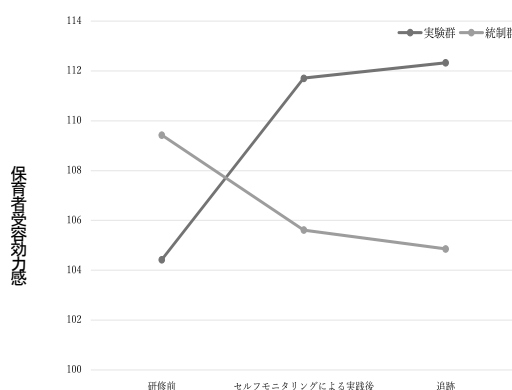


図 1 群別・時期別における保育者受容効力感平均値の推移

なかった。このことは、支援プログラムを経験し、セルフモニタリングによる実践を経ることで保育者受容効力感が向上することを示している。また、セルフモニタリングによる実践後と追跡の間には、保育者受容効力感に有意な差はなかった。これにより、セルフモニタリングによる実践後から 1 か月後でも、向上した保育者受容効力感は維持されていることが示唆された。

これらの結果から、保育者による受容に働き掛ける支援には、保育者受容効力感を高める明らかな効果が示されたといえる。さらに、効力感の上昇に伴い、研修時、セルフモニタリングによる実践後、及び追跡で実験群の標準偏差の値がほぼ横ばいである点は、着目すべき点といえる（順に、15.42, 14.03, 15.24）。これは、参加者における保育者による受容に対する共通認識が、一定のレベルでもたれているといえる。

以上のことから、保育者による受容に働き掛ける支援が、明らかに保育者受容効力感を高める効果があることが示されたといえる。保育者による受容を明確なものにし、新たな保育実践に有益な形で活かしていくという思考過程を辿ることは、質の高い保育の実現に結び付くといえよう。このことが保育者受容効力感を高め、それを持続させることに大きく寄与しているものと考えられる。

引用文献

秀真一郎・横松友義・西山修：「保育者による受容に関わる多次元効力感尺度の開発—保育実践での活用を目指した検討—」, 日本応用教育心理学会誌『応用教育心理学研究』第 39 巻第 1 号, 67-80 頁, 2022 年。

戦間期地域社会教育は職業教育にいかに関与したかー中国地方を中心とした検証

倉知 典弘
吉備国際大学、社会科学部
スポーツ社会学科

実業教育史の研究は中等教育以降の研究が多く、実際の勤労青年の教育機関での職業教育の研究は少ない。そこで勤労青年の教育を中心に担った青年学校の職業教育の実態を明らかにするために、岡山県の中山間地域の青年学校の研究を実施した。本年度は岡山県下の青年学校の動向の検証と「市町村史」の分析を進めた。

その過程で明らかになったことは①岡山県下の青年学校では職業教育にもかなりの時間数を配当し、職業教育は軽視されていなかった、②職業教育機関の伝統を名称などに表した事例も存在した、③地域社会の努力によって建設された青年学校が多く、建物は簡素であるものが多かった、④青年団だけではなく、農村振興の観点から青年学校就学促進が行われた事例がみられた。

キーワード：青年学校、実業教育、青年期教育、岡山県

1. 研究の目的

実業教育史の研究は中等教育以降の研究が多く、実際の勤労青年の教育機関での職業教育の研究は少ない。そこで勤労青年の教育を中心に担った青年学校の職業教育の実態を明らかにするために、岡山県の中山間地域の青年学校の研究を実施した。本年度は岡山県下の青年学校の動向の検証と「市町村史」の分析を進めた。

2. 岡山県青年学校の概要

(1) 青年学校振興への期待

岡山県では青年学校が発足してすぐの 1935 年 5 月に青年学校長会議を開催した。『岡山県史資料編第 30 巻』に掲載された「県校長会議録」によれば、その会議で青年学校経営方針として精神教育（人格教育の徹底）、鍛錬教育（国民精神の高揚）、職業精神の陶冶、共同社会性の強養の 4 つが示された。また、「青年学校ヲ中心

トスル社会教育施設」として「郷土ノ構成理想郷ノ建設」のために活用すべきと青年学校を中心とした地域振興が唱えられた。さらに昭和 10 年度には「農業教育講習会」の開催も示されていたようである（岡山県史編纂委員会編、1988、pp. 921-924）。以上のように青年学校は地域における青年の教育を通じた地域振興と職業陶冶をそれなりに重要視していたことが明らかである。

(2) 岡山県青年学校の教授内容

青年学校の教授内容は、青年学校令施行規則（1939 年。以下施行規則と表記）に示されるが、岡山県では「岡山県青年学校準則」（以下準則と表記）に定められた。双方の授業時数のみを対照したものが表 1 である。

表 1 教授時間数の比較

			施行令	準則
普通科	第1学年	男子	210	408
		女子	210	408
	第2学年	男子	210	408
		女子	210	408
本科	第1学年	男子	210	374
		女子	210	408
	第2学年	男子	210	374
		女子	210	408
	第3学年	男子	180	238
		女子	210	408
	第4学年	男子	180	238
		男子	180	238

準則では施行規則を超える授業時数が設定されている。女子は、第 2 学年で職業科と家庭科を併せて 170 時間の教授を受け、家事や裁縫などの教授を受けることになっていた。また、本科の男子は第 1・2 学年までは普通学科が独立して位置づけられるが、第 3 学年以降は職業科と統合され、「職業に関係深き普通学科」「農業経営」が 102 時間となる。授業数の減少の多くは普通学科の授業減によるものである。

なお、「津山市男子青年学校学則」によれば①週間の授業時数は尋常小学校卒業生対象の普通科第 1 部で週 12 時間、第 2 部週 32 時間もしくは週 36 時間（工芸部のみ）であり、第 1 本科第 1 部（2 年）で週 9-12 時間、第 2 部（3 年）で週 6-12 時間、第 2 本科（5 年）が農業部週 31 時間、工芸部週 36 時間、商業部週 32 時間であった。また、職業科で農業を選択した生徒は、農繁期 2 か月は家庭学習が認められていた。地域の青年の実態に合わせて多様な教育課程が選択できる事例である（津山市史編さん委員会編、1985、p. 245）。

(3) 岡山県青年学校設置校数の変化

岡山県の青年学校は市町村立 408 校、私立 8 校で 1935 年に発足した。1939 年の義務化まで市町村立の件数はほとんど変化がないが、私立の青年学校は 8 校から 30 校まで順調に増加している。特に 1936 年度は 21 校まで 13 校の増加であった。また、生徒数を見ると 1935 年当初は男子 1018 名、女子 462 名であったが、1937 年度になると男子 1546 名に対して女子 8046 名と女子の就学者が大幅に増加する。これは紡績・製糸等女工を抱える工場が工場内青年学校を設立したことによると考えられる。

青年学校義務化以降の岡山県下の青年学校数は図 1 の通りであるが、1942 年の文部省による統合の指示に基づき校数が減少した。これは青年学校教員の数が不足したことが要因である。

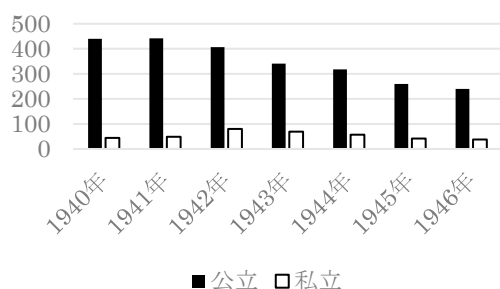


図 1 岡山県青年学校数の変遷（岡山県教育委員会, 1974, p. 122 の表をもとに作成）

『岡山県教育史 続編』に掲載されている「岡山県教育会職員録資料」（岡山県教育委員会, 1974, p. 124-125）を確認すると、制度導入当初は独立校 18 校、併設校 383 校と圧倒的に多くが小学校などに併設されていたが、1943 年の段階では独立校が 182 校、併設校が 97 校と独立の校舎を持つ青年学校が大幅に増えており、青年学校の充実が図られたともいえる。

3. 青年学校と地域社会

(1) 設立をめぐる

青年学校は従来の実業補習学校を青年学校に移行したことが多い。例えば、阿哲郡矢神村では実業補習学校として設立した哲西実践農学校を農道青年学校と改称している。この「農道」という名称に農業振興という職業教育的な意図を垣間見ることができる。

また、青年学校は徐々に独立校舎を設置するようになってきたが、これは住民らの努力によるものも多い。『湯原町史』には住民らが校舎の

建築などを行ったことが示されている。そこでは、経費も少なく、比較的簡易に立てることができる「日輪兵舎」と呼ばれる建築様式が採用される地域も多かった。この様式は満蒙開拓青少年義勇軍育成所で採用された建築様式で費用もあまりかからず、自分たちの力で建てられるものであり、「加藤完治の皇室崇拜と農本主義が結びついた開拓教育の方向性とも合致する」（松山, 2015, p. 191）として採用されたものである。

(2) 統廃合をめぐる

青年学校の統合については地域に対立をもたらした事例が岡山県内で確認できる。『川上村史』には青年学校校舎新築に伴い、村内の分校を統合しようとしたが、村民側が利便性などの観点からそれを否定し、結果として青年学校の分校がその地域に残り続けることとなった。

(3) 青年学校の名称をめぐる

青年学校の名称は、地域名がそのまま冠される事例が多いが、一方で先ほどの「農道」青年学校のように独自の名称を冠する事例も多い。例えば、1943 年に設立された和泉村外三か村学校組合立報国青年学校（奥津町）は、国に尽くす青年を育てることを明確にしている。「興亜青年学校」（鏡野町）「東亜青年学校」（小瀬村・有漢村・上有漢村組合）という名称は、当時の大東亜共栄圏の指導的国民を育てるという方針をより積極的に引き受けた名称である。

5. おわりに

以上、岡山県の青年学校の教育のあり方を統計や市史によりながら検討を行ってきた。市史において地域住民の意志が青年学校に反映された可能性や他の活動が青年学校の振興に影響を与えた可能性をみることができた。

しかし、市史の多くは青年学校の記載を行うことがあまりできていない。それは青年学校関連資料が敗戦直後に多く焼却されてしまったことによる。

【主要参考文献】

- ・岡山県教育委員会編『岡山県教育史 続編』, 1974。
- ・津山市史編さん委員会編『津山市史 第7巻 現代Ⅱ—大正・昭和時代—』津山市, 1985。
- ・松山薫「日本各地の「日輪兵舎」—忘れられた満蒙開拓青少年義勇軍の象徴—」『季刊地理学』vol. 67, pp. 191-196, 2015。

マルトリートメント体験に起因する更年期症状の発見のためのアセスメントツールの開発

福岡 美和

吉備国際大学、保健医療福祉学部
看護学科

海外の研究では、更年期症状を発症する要因のひとつに幼少期などのマルトリートメント体験が起因していることが報告されている。日本人女性においては未だ不明である。

本研究は、更年期女性に着目し幼少期のマルトリートメント体験が、心身に及ぼす影響を明らかにするとともに、幼少期のマルトリートメント体験に起因する更年期症状を早期に発見、対処するためのアセスメントツール開発を目指す。今回は前段階として、20歳代から60歳代の女性の幼少期のマルトリートメント体験者の現状と体験者の思いを明らかにすることとした。

キーワード：幼少期マルトリートメント、小児期逆境体験、女性、更年期症状、更年期障害

目的：幼少期のマルトリートメント体験者の現状と体験者の思いを明らかにする。

対象：学校法人Aに勤務する女性職員150名
調査期間：2022年6月10日～2022年6月30日

調査・分析方法：吉備国際大学倫理審査委員会の承認（承認番号21-56）を得て、Googleフォームにて年齢、家族構成等の基本情報、簡略更年期指数（SMI）、日本語版小児期逆境体験尺度（日本語版ACE）質問紙を使用しアンケートを実施した。また、幼少期のマルトリートメント体験の思いを自由記載欄に記載してもらった。単純集計および自由記載された内容を質的帰納的に分析した。本稿では、結果のみを報告する。

結果：配布数150部、回収数60部（40%）、有効回答数50部（33.3%）であった。回答者の年齢は20歳代2名（4%）、30歳代6名（12%）、40歳代23名（46%）、50歳代18名（36%）、60歳代1名（2%）であった。そのうち、26名（52%）が幼少期のマルトリートメントを体験していた（図1）。年齢別では20歳代2名（8%）、30歳代5名（19%）、40歳代10名（38%）、50歳代8名（31%）、60歳代1名（4%）であった（図2）。

Adverse Childhood Experiences (ACE) 質問項目の13項目（表1）のうち、5項目以上を体験していたものは、4名（15.3%）であった。また、仕事や家事に支障が出たものは22名（84.6%）、人間関係に支障が出たものは20名（76.9%）であった。全員が不定愁訴を認めており、簡略更年期指数判定では5名（19.2%）が医師の診察を受け、生活指導、カウンセリング、薬物療法を受けた方が良いという結果が出た。また、幼少期のマルトリートメント体験者の思いでは、7のカテゴリ、29のサブカテゴリが抽出された。他者との関係性では7のサブカテゴリ、身体の不調では5カテゴリ、家族との関係性では3カテゴリ、トラウマでは1カテゴリ、自己肯定感の低下では4カテゴリ、自己の傾向では6カテゴリ、正の感情では3カテゴリが抽出された（表2）。

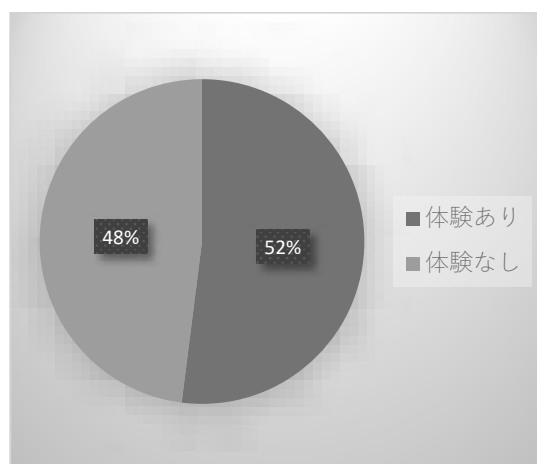


図1 幼少期のマルトリートメント体験の有無

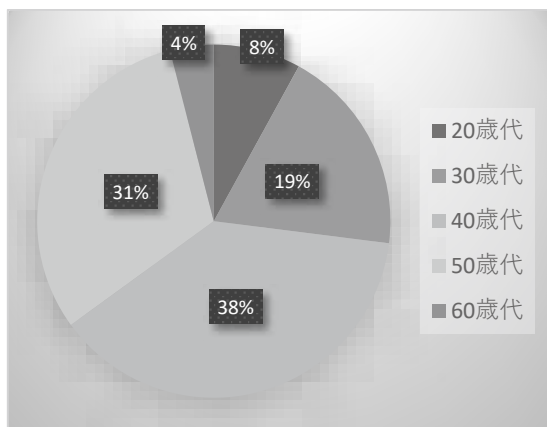


図2 幼少期のマルトリートメント体験者年齢

あなたは幼少期（18歳まで）に以下の経験がありますか。	
1	両親または家庭内の大人にのしられたり、けなされたことがありますか。
2	両親または家庭内の大人に身体的に傷つけられたことがありますか（押したり、握んだり、叩いたり、物を投げつけたり、アザ、怪我、骨折）。
3	あなたより5歳以上年上の人が性的な目的を持ってあなたに触れたり撫でたり、自分の体に触れさせようとしていましたか。
4	あなたは家族の誰からも愛されていないと感じていましたか。
5	あなたの家族はお互いのことを気遣い、助け合っていると感じましたか。
6	あなたは十分な食事を摂っていないことがありましたか。
7	あなたは汚れた服を着せられていましたか。
8	あなたは誰も保護してくれないと感じることがありましたか。
9	両親または家庭内の大人はアルコールの問題を抱えていましたか。
10	両親または家庭内の大人が薬物（覚せい剤、麻薬等）を使用していましたか。
11	両親または家庭内の大人が精神疾患を患った人がいましたか。
12	あなたの両親は離婚や別居をしていましたか。
13	両親または家庭内の大人で服役した人がいますか。

表1 Adverse Childhood Experiences (ACE)

カテゴリ	サブカテゴリ
他者との関係性	他者と深く関わりたくない
	他人を信用しない
	他人が信じられない
	他人に期待しない
	警戒心が強い
	結婚がよいものとは思えない
身体の不調	家庭を持つことへの不安
	食事を定期的に摂らない
	寝つきが悪い
	トイレを我慢する
	過呼吸、呼吸困難感、動悸、思考停止、パニック
家族との関係性	月経困難症
	母親と祖母との主従関係
	両親が厳しい
トラウマ	両親の離婚
	性的被害
自己肯定感の低下	自分を否定される
	自己肯定感が低い
	自分自身が卑下される
	自身の女性性を否定
自己の傾向	社会に適応ができていく
	周りを気にしすぎる
	周りの動向を見ていないと不安
	素直に受け取りにくい
	防衛反応が働く
正の感情	誰にも相談できない
	前向きな考え
	看護してもらったことへの感謝
	メンタルが強い

表2 幼少期のマルトリートメント体験の思い

5. 参考文献

- 高橋康史(2021), 親の拘禁は子どもに不利益だけを招くのかー父親が犯罪者となった経験をもとにー. 社会臨床雑誌, 28(2), 1-13.
- 三宅和佳子(2021), 小児期逆境体験 (ACE) が子どもの精神発達に与える影響ー成因・危険因子. 精神科臨床 legato, Vol, 7/No, 1, 20-24.
- 中井(松尾)和弥(2021), 小児期逆境経験が身体症状による負担感に及ぼす影響ー愛着スタイルを媒介変数としてー. 心身医, Vol, 6/No. 2, 186-194.
- 大川聡子(2020), 10代母親への妊娠期から産後にわたる保健師の継続支援ー逆境的小児期体験 (AEC) の有無による比較ー. 日本地域看護学会誌 23(2), 33-42.
- 藤澤隆史(2020), 児童期逆境体験 (AEC) が脳発達に及ぼす影響と養育者支援の展望. 精神経誌, 122(2), 135-143.
- 稲葉啓道(2020), 児童心理治療施設における発達性トラウマ障害 (Developmental Trauma Disorder: DTD)ー子どもの言動の新たな評価の試みー. 精神経誌, 122(2), 144-151.
- 陶山寧子(2020), 児童相談所の保護者支援ー地域につないでいくためにー. 精神経誌, 122(2), 152-159.
- 板橋登子(2020), 小児期逆境体験が物質使用障害の重症度に及ぼす影響ー不信感, 被拒絶感, ストレス対処力の低下を媒介としたモデル検討ー. 精神神経学雑誌, 122(5), 357-369.
- 北村智稀(2020), 児童期の逆境体験 (ACE) が青年期以降のメンタルヘルスに及ぼす影響についての横断的研究ー嗜癖傾向に着目してー. ストレス科学, 35(1), 88-96.
- 山崎知克(2019), 逆境的小児期体験が子どものこころの健康に及ぼす影響に関する研究, 成育疾患克服等次世代育成総合研究事業総合研究報告書
- 松浦直己(2007), 非行と小児期逆境体験及び不適切養育との関連についての検討ー少年院における AEC 質問紙を使用した実証的調査ー. 兵庫教育大学研究紀要, 第30巻, 215-223.

薬剤性筋萎縮抑制に対する保存療法（理学療法）の検討～筋収縮運動および血流抑制によるマイオカイン発現と薬剤性筋萎縮抑制効果の検証

中嶋 正明

吉備国際大学、保健医療福祉学部
理学療法学科

超高齢社会を迎えた本邦において、骨格筋機能の能持と改善は重要な研究課題である。強力な抗炎症作用を有する Glucocorticoid (GC) 投与に伴う副作用である筋萎縮は、GC 投与後に高頻度で発生し、日常生活動作を阻害する。古くから認識されてきた重篤な症状でありながら、有効な保存療法（理学療法）はいまだに確立されていない。一方、近年の研究から、異なるタイプの筋収縮運動や血流制限が骨格筋肥大を促進し得る可能性が示唆されている。さらに、骨格筋肥大や萎縮に関連する因子として「マイオカイン」と呼ばれる新規ペプチドが注目されている。我々は、GC 誘発性筋萎縮動物モデルを用いて、筋萎縮を効果的に抑制する理学療法の根拠となる基礎的メカニズムを研究している。

キーワード：薬剤性筋萎縮、Glucocorticoid、遠心性収縮、マイオカイン

【緒言】

筋萎縮は、廃用性、加齢、疾患原性、薬剤性などに分類され、それぞれが異なった特徴を有する。GC 製剤は、極めて優れた抗炎症作用を有するため、多様な炎症性疾患に対して適用される。しかし、強力な薬理作用を有する一方で、有害な副作用も問題となる。特に GC 誘導性筋萎縮症は、著しい筋力低下に伴う日常生活動作能力の低下を招く、極めて重大な副作用である。

GC 誘導性筋萎縮症は、四肢近位筋に好発し、Type II 線維優位の萎縮を呈する。先行研究より、ラットに対する Dexamethasone (DEX: GC の一種) 投与は筋タンパク質の合成/分解経路の起点となるマイオカインである IGF-1 や Myostatin の発現を遺伝子およびタンパク質レベルで調整することが明らかになっている。

我々の研究より、遠心性収縮優位の下り坂走行は、上り坂走行と比較してタンパク合成を促進するマイオカインである Irisin 産生を高める可能性があることが明らかになった。しかし現状では、筋収縮様式の異なる運動条件が GC 誘導性筋萎縮症からの回復に及ぼす影響を比較した研究はない。GC 誘導性筋萎縮症に対する遠心性収縮と求心性収縮トレーニングの効果の違いが明らかになれば、運動療法プログラムを立案する際に有用である。

【目的】

本研究の目的は、運動療法における筋収縮様式の違いが GC 誘導性筋萎縮からの回復に与える影響を明らかにすることである。

【対象】

対象は、10 週齢の雄 Wistar ラットであった ($n = 32$)。本研究は、本学の動物実験委員会承認されている（承認番号：A-19-03）。

【方法】

対象を、8 匹ずつ 4 群 (Vehicle 群、DEX 群、上り坂走行群 [UH 群]、下り坂走行群 [DH 群]) に分けた。Vehicle 群は、実験開始日より 5 日間連続で 1 ml/kg^{-1} の生理食塩水を腹腔内に投与した後、6 週間自由飼育した。その他の群は、GC 誘導性筋萎縮症を生じさせるため、先行研究に準じて Vehicle 群と等量の生理食塩水で希釈された $600 \text{ } \mu\text{g/kg}^{-1}$ の DEX (Sigma-Aldrich、アメリカ) を 5 日間連続で腹腔内に投与した。その後 6 週間、DEX 群はケージの中で自由飼育し、UH 群、DH 群にはトレッドミル走行トレーニングを課した。DEX 投与終了後、各走行群に $15 \text{ 分} \times 2 \text{ セット} \times 18 \text{ セッション}$ ($3 \text{ セット/週} \times 6 \text{ 週}$) の走行を課した。各セット間には 5 分の休憩を設けた。走行群は、先行研究に準じてそれぞれ 15° の上り坂もしくは下り坂に傾斜したげっ歯類用トレッドミル (室町機械、東京) 上を走行した。走行群は、トレーニング時間以外は自由飼育した。

ラットが全セッションを完走できるように UH 群の走行速度を漸増させた。DH 群の走行速度は、UH 群と同等の酸素消費量が得られるように、先行研究で示された回帰式に従い漸増させた。

Vehicle 群および DEX 群は、16 週齢を迎えた時点で、腹腔内にペントバルビタールナトリウムの過剰投与によって屠殺した。走行群は、最

終走行終了の48時間後、同様に処置した。心停止および呼吸停止を確認した直後、左心室穿刺によって血液を採取した。採取した血液を直ちに4℃、3,000 rpmで10分間遠心し、分離された血清を生化学的分析に用いるまで-80℃で保存した。血清中のマイオカイン濃度は、ELISA法[Myostatin (R&D systems、アメリカ、DGDF80)、IGF-1 (R&D systems、アメリカ、MG100)、およびIrisin (Phoenix Pharmaceuticals、アメリカ、EK-067-29)]によって定量した。血清の吸光度の算出にはマイクロプレートリーダーSH-1200およびSF-6 software (コロナ電気株式会社、日本)を用いた。

血液採取の直後、右後肢より内側腓腹筋を採取し、生化学的分析に用いるまで-80℃で保存した。内側腓腹筋を解凍した後、ホモジナイズして、抽出液をBradford法による総蛋白量分析および血清と同種のELISA法に供した。

また、左側後肢よりヒラメ筋、内側腓腹筋、および長趾伸筋を採取し、筋湿重量測定に供した。さらに、左後肢の内側腓腹筋は組織学的分析に供した。ヒラメ筋の組成はType I線維優位であり、DEX誘導性筋萎縮症を呈しにくい。腓腹筋の組成はType II線維優位であり、DEX誘導性筋萎縮を呈しやすい。長趾伸筋の組成はType II線維優位であり、DEX誘導性筋萎縮を呈するが、抗重力筋ではないため、異なる傾斜走行において筋収縮様式の影響を受けにくいとされる。

左後肢の内側腓腹筋は、10%中性リン酸緩衝ホルマリンで固定した後、スクロース置換処理を施した。その後、クリオモルド内にてOCTコンパウンドで包埋して液体窒素で凍結させ、組織学的評価に用いるまで-80℃で保存した。

DEX群、UH群、DH群の内側腓腹筋の凍結ブロックをクライオスタットにて10 μmに薄切(横断面)し、常法に則りNADH-TR染色法で染色した。断面写真は、バーチャルスライドとしてPCに取り込んだ。尚、薄切、染色およびバーチャルスライド化の作業は京都大学大学院医学研究科附属総合解剖センターに委託した。委託費用は共同研究費より支出した。各筋切片からランダムに各5枚の横断面画像(200倍)を撮影し、Image J(United States National Institutes of Health、アメリカ)を用いて各筋より線維タ

イブ毎(Type I、Type IIA、Type IIB)に各100本の筋線維断面積を定量化した。尚、本抄録提出時点では、筋断面積の解析途中であるため、各群とも1筋分のデータのみ報告する。

体重の比較には、解剖時の体重を実験開始時の体重で除した値(体重成長率)を用いた。筋湿重量の比較には、解剖時の湿重量を実験開始時の体重で除した値を用いた。筋中のマイオカイン濃度は、総蛋白量で除した値を用いた。全ての群間の差の検定には、Tukey法による多重比較法を用いた。統計解析にはJMP PRO 16を用いた。全ての検定における有意水準は $\alpha = 5\%$ に設定した。

【結果】

以下、指定の無い限り数値は平均値を示す。

DEX群の体重成長率(125.4%)は、Vehicle群(139.5%)およびUH群(133.6%)に対して有意に低値を示した。

UH群(0.0624%)とDH群(0.0649%)のヒラメ筋湿重量/体重比率はDEX群(0.0478%)に対して有意に高値を示した。DH群はVehicle群(0.0542%)に対しても有意に高値を示した。

UH群(0.334%)とDH群(0.317%)およびVehicle群(0.327%)の内側腓腹筋湿重量/体重比率はDEX群(0.290 μg/g)に対して有意に高値を示した。

長趾伸筋湿重量/体重比率は全ての群間に有意差を認めなかった。

内側腓腹筋の筋線維断面積は、全てのタイプでUH群= DH群> DEX群となった(解析途中)。

DH群の骨格筋組織中Myostatin濃度(31.2 pg/g)は、Vehicle群(42.74 pg/g)に対して有意に低値を示した。

血清中マイオカイン濃度は全ての群間に有意差を認めなかった。

【結論】

DEX投与後6週間の運動療法は、自然飼育では回復しなかった筋萎縮からの回復を促進することが明らかになった。一方で、DEX投与によって一時的に異常化するとされる血中および骨格筋中のマイオカイン動態は6週間の自然飼育により正常化し、運動療法を課してもさらなる改善は得られなかった。さらに、予測酸素消費量を同等に設定した場合、筋収縮様式の違いは筋湿重量の回復に影響しなかった。これ以上の解釈は筋断面積の解析完了を待ちたい。

γ-アミノ酪酸 (GABA) は種子休眠に影響するか

氷見 英子
吉備国際大学、農学部
地域創成農学科

γアミノ酪酸 (GABA) は血圧降下作用やストレス軽減効果があるといわれ、機能性表示食品としても多く用いられている。GABA はトマト、ダイズ、米などの食材に多く含まれ、特に玄米をわずかに発芽させた「発芽玄米」には GABA 量が高濃度に蓄積することが知られている。GABA 含量の多い「あゆのひかり」は発芽玄米や発芽玄米を添加した加工利用が期待された品種であったが、収穫前に種子が穂についたまま発芽する「穂発芽」が起きやすいことが報告されている。そこで本研究では穂発芽被害の多いコムギおよびオオムギを材料に、種子に蓄積される GABA 量と種子休眠との関連について調査を行った。

キーワード：GABA、オオムギ、コムギ、種子休眠、穂発芽

【材料および方法】

本研究で用いたオオムギ (*Hordeum vulgare* L.) 及びコムギ (*Triticum aestivum* L.) を表 1 に示す。これらの系統は全て吉備国際大学農学部南あわじ志知キャンパスのグラウンド圃場で育成した。

コムギ発芽試験には開花後 45 日目のタマイズミの種子を用いた。9 センチシャーレに種子約 20 粒を置き、GABA およびその前駆体であるグルタミン酸水溶液 (0, 0.1, 1, 10mM) を加え、20℃、暗黒下で発芽試験を行った。24 時間おきに 7 日間発芽数をカウントし、発芽指数 (発芽しやすさ) を求めた。

GABA 定量は GABA ミエール (エンザイム・センサ社) を用いた。GABA 定量に用いる種子 2 粒は重量を測定したのち、ステンレスビーズを用いて ShakeMaster Neo (bms 社) で粉碎し、1 mL の超純水を加えて攪拌したのち、4℃で 24 時間静置した。この懸濁液を遠心 (15000 rpm, 10 分) した上清を GABA 抽出液として、以後の操作は GABA ミエールのプロトコルに従った。

種子休眠関連遺伝子 *AlaAT* の遺伝子型は制限酵素 *TaqI* を用いた CAPS 法によって調査した。

表 1. 本研究で用いたコムギ及びオオムギ系統			
系統名	種子ステージ	実験	
コムギ	Chinese Spring	完熟	GABA 定量
	タマイズミ	開花後 45 日	発芽試験
		開花後 20, 30, 40 日	GABA 定量
	OS96	開花後 20, 30, 40 日	GABA 定量
オオムギ	新淡路	完熟	
	はるな二条	開花後 7, 14, 21, 35 日	GABA 定量
	木石港 3	開花後 7, 14, 21, 35 日	GABA 定量
	ニシノホシ		
	キラリモチ		
	HES		
	信濃 1 号		
	Godiva		
	Pallas		
	シンジュボシ		
			AlaAT 遺伝子型調査

【結果】

GABA およびグルタミン酸水溶液を用いてコムギ種子の発芽試験を行った結果、2 つの物質は高濃度ではやや発芽を促進する傾向は見られたが有意差はなく、濃度に関わらず発芽には影響しないことがわかった (図 1)。このことから、外因性の GABA は種子発芽には影響しないと考えられる。

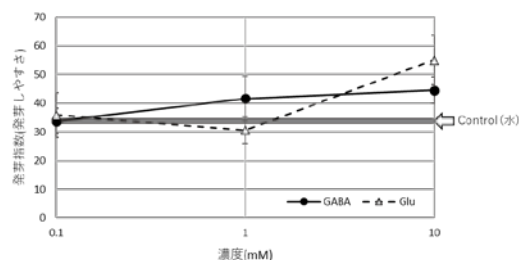


図 1. GABA またはグルタミン酸水溶液を用いた発芽試験。対照実験として水を用いた場合の発芽指数を灰色の線で示した。

次にコムギ及びオオムギの完熟種子の吸水による GABA 量の変化を調査した。その結果、コムギ及びオオムギいずれにおいても吸水時間に伴い GABA 量が増加する傾向が見られた (図 2)。

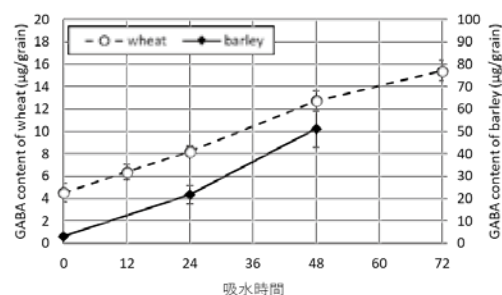


図 2. コムギおよびオオムギ種子の吸水に伴う GABA 量の変化

これらの結果から、コムギ及びオオムギにおいては、種子発芽に向けて種子内在性の GABA 量が増加することが明らかになった。また、種子一粒に含まれる GABA 量はコムギよりもオオムギのほうが多いことがわかった。

そこで、種子発達過程での種子中での GABA がどのように推移しているのかを調査するため、コムギ OS96 およびタマイズミの開花後

20, 30, 40 日目の種子中の GABA を定量した。いずれの系統でも、開花後 40 日の成熟期を迎える時期に GABA 量が急激に低下する結果が見られた(図 3)。

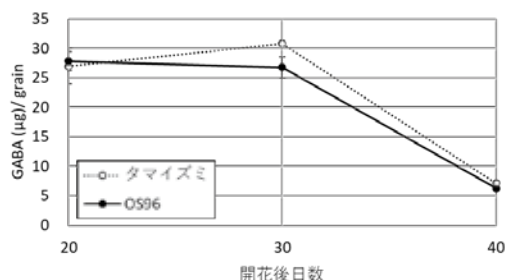


図3.コムギ種子発達段階でのGABA量の変化

2 つの系統間の GABA 量を比較すると、休眠程度が浅いタマイズミのほうがやや GABA 量が多い傾向が見られた。

次にオオムギ木石港 3 及びはるな二条について、開花後 7 日目から 7 日おきに 35 日目まで採取した種子で同様の実験を行った。コムギ同様、オオムギ種子においても種子発達後期の成熟期にかけて GABA 量が急速に減少する傾向が見られた。また 2 系統間での成熟前の種子中の GABA 量を比較すると、休眠の浅いはるな二条のほうが多い傾向が見られ、コムギと同様の結果となった(図 4)。

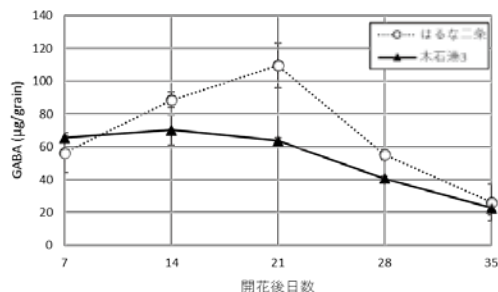


図4. オオムギ種子発達段階でのGABA量の変化

オオムギのアラニンアミノ基転移酵素をコードする遺伝子 *AlaAT* は種子休眠制御因子 *Qsd1* として単離されたが、その制御機構は明らかになっていない。アラニンアミノ基転移酵素はアラニンと α -ケトグルタル酸をピルビン酸とグルタミン酸に相互変換する酵素である。グルタミン酸は GABA の前駆物質であり、グルタミン酸デカルボキシラーゼ (GAD) によって合成される(図 5)。

GABA はシグナル物質として機能することから、*AlaAT* は GABA 合成を制御することで結果的に休眠/発芽を制御している可能性がある。そこで 10 系統のオオムギを用い、CAPS 法を用いて *AlaAT* 遺伝子型 (*Qsd1/qsd1*) を判別した(図 6)。

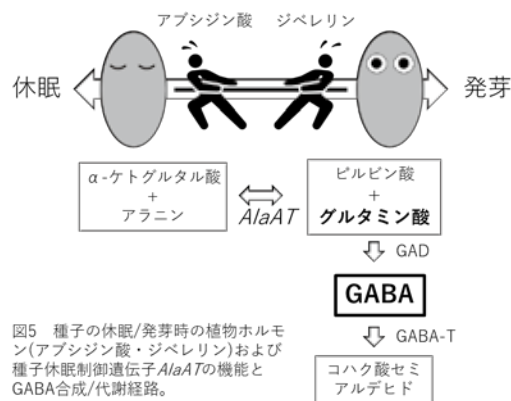


図5 種子の休眠/発芽時の植物ホルモン(アブシジン酸・ジベレリン)および種子休眠制御遺伝子 *AlaAT* の機能と GABA 合成/代謝経路。

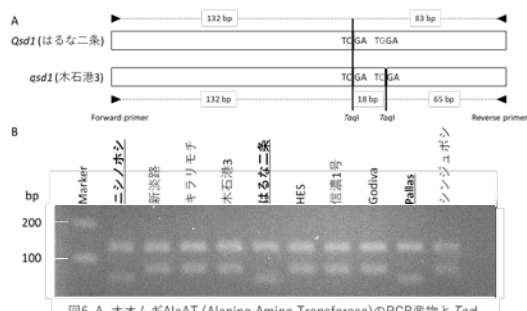


図6. A. オオムギ *AlaAT* (Alanine Amino Transferase) の PCR 産物と *TaqI* 認識部位。B. *TaqI* 処理後のオオムギ 10 系統の *AlaAT* 増幅産物。下線をつけた系統が *Qsd1* (顕性) タイプ。

本研究で用いたオオムギ 10 系統のうち、ニシノホシ、はるな二条、Pallas の 3 系統は *Qsd1* タイプ、残りの 7 系統(新淡路、キラリモチ、木石港 3、HES、信濃 1 号、Godiva、シンジュボシ)は *qsd1* タイプであった。*Qsd1* タイプはアラニンからグルタミン酸への変換を行うことで GABA が増加し、その結果発芽しやすい(休眠が弱くなる)可能性が示唆された。

【考察】

コムギ及びオオムギ種子内在性 GABA は種子発達中に合成され、成熟に伴い減少する。成熟前に穂に雨が当たり種子が発芽する「穂発芽」現象は、GABA 量が減少する前、つまり種子内在性 GABA が多く蓄積されている時期と重なっている。種子発達に GABA がどのような役割を果たしているかは不明であるが、穂発芽と GABA 量とに相関が見られた今回の結果は興味深い。

一方、完熟種子を吸水させると、吸水時間に比例して GABA 量が増加する。言い換えると、種子を吸水させることでまず GABA が増加し、その後発芽というイベントが起きている。つまり「発芽したから GABA が増える」のではなく「GABA が増えるから発芽する」という新しい可能性が示された。

第2部

各研究所・センター

- ① インドのエイズ結核患者の治療成績改善プロジェクト

保健福祉研究所 服部 俊夫

- ② 大学生を対象とした模擬避難所合宿訓練

心理・発達総合研究センター 橋本 翠

- ③ 吉備津神社に奉納された横綱千代の富士の優勝額の修復

文化財総合研究センター 大原 秀行

- ④ 溶液栽培におけるミョウガ花蕾腐敗症状から分離された

Pseudomonas 属細菌について

植物クリニックセンター 相野 公孝、津野 翔、村上 二郎

インドのエイズ結核患者の治療成績改善プロジェクト

服部 俊夫
吉備国際大学、保健福祉研究所

ヒト免疫不全ウイルス (HIV) を原因とする後天性免疫不全症候群 (AIDS) は免疫低下により様々な免疫不全を生ずる。健康者より結核に罹患する確率は19倍で結核死の17%をエイズ結核が占めている。発症した際には抗 HIV 薬 (ART) を3種類、抗結核剤 (ATT) を3-4種類服用する。ART で治療中の HIV 感染者も免疫活性化が生じていることが知られている。我々は以前よりエイズ結核患者において、マトリセルラー蛋白であるオステオポンチン (OPN) やガレクチン 9 (Gal-9) がエイズ結核で上昇していることをインドの国エイズ研究所 (NARI) とともに報告している。今回は治療におけるこれらの蛋白の変動を観察し、診療に役立てることを目的にした。

キーワード：エイズ、結核、免疫活性化、オステオポンチン、ガレクチン 9

OPN も Ga-9 も様々な細胞から分泌され、細胞外に存在するためにマトリセルラー蛋白 (MCP) と分類されている。OPN は主にマクロファージから分泌されることから、結核などの感染症、あるいは動脈硬化の成因として知られてきた。Gal-9 は初期には好酸球遊走因子として、熊本大学で共同研究をしてきた平島らにより単離された。現在は双方とも免疫チェックポイント分子として、癌や感染症への治療法への応用が研究されている。

インドの NARI とは JICA 草の根協力事業 マハラシュトラ州における HIV/TB の治療成績改善プロジェクトとして、治療におけるこれらの蛋白の変動が、治療により影響を与えるかを検討した。患者は33名であったが、2名が死亡、1名が多剤耐性結核、2名が追跡不能となった。5名が抗 SARS-2 抗体陽性であったが、活動性の感染者ではないと判断して、解析に加えた。これらの患者で主に4個の炎症マーカーを測定した。OPN, Tr-Gal9 (切断型 Gal-9), FL-Gal9 (全長型 Gal-9), CRP である。また肺を病変の主体とする肺型と消化器や全身のリンパ節を主体とする肺外型に分けて解析した。臨床医の指示により治療を終了するまでに、初回、2ヶ月後、

治療終了時 (6ヶ月 - 18ヶ月) と3点の採血を行い、炎症マーカーを測定した。

肺型のエイズ結核では前述した4種類の炎症マーカーはすべて減少した。しかし肺外型では FL-Gal9 のみが有意に減少した。またそれぞれのマーカーの相関を見ると、肺型では OPN と Tr-Gal9 が相関し、二つの因子が肺結核の病態に関与していることが示された。肺型患者の胸部 X 線を軽症型 (Limited) と中等度型 (Moderate) と分類すると中等度型の患者の CD4 数が有意に高いことが明らかになった。(図1)

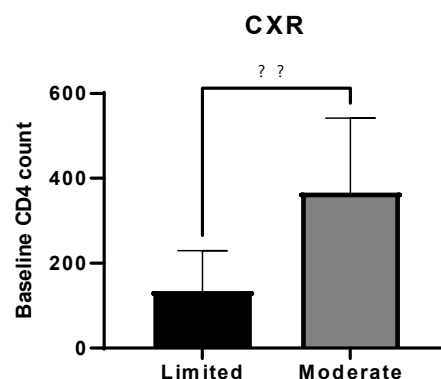


図1 エイズ患者の胸部 X 線 (CXR) と CD4 数

さらに患者を6ヶ月治療終了群と7ヶ月以上群に分けてそのマーカーを解析すると後者では CD4 数が有意に高いことが示された。(図2)

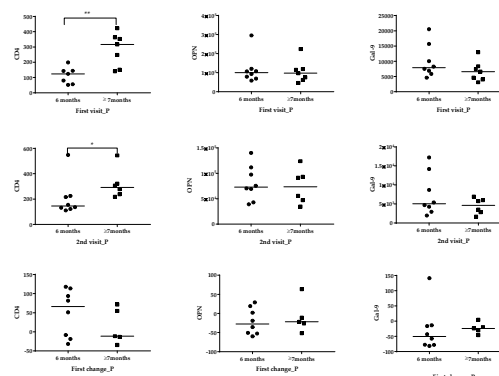


図2 6ヶ月と7ヶ月以上治療群のマーカー

エイズ・結核は他の日和見感染症に比べて、CD4 数が余り低下していない患者も罹患することが知られていた。ここに示した、CD4 数が高いグループが胸部 X 線の悪化と治療期間の延長が認められた可能性がある。これらの炎症に関与する CD4 の性質を検索することが今後の課題となった。

また患者の治療効果を4つの炎症マーカーの減少率からスコア化を試みた。

前回からの減少率が75%以上を3点、75-50%を2点、25-50%を1点、25-25%を0点、25%以上上昇すると-1点とした。

これらを集計し肺型と肺外型と比較検討すると有意ではないが、肺型のスコアが高く、肺型が肺外型よりも治療後の慢性炎症が低いことが想定された(図3)。

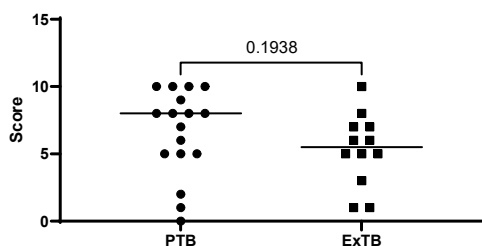


図3 肺型(PTB)と肺外型(ExTB)の治療スコア

さてこれらのスコアと測定したマトリセルラー蛋白の相関を解析してみると、OPN、Gal-9、CRPの減少率とスコアは逆相関した。すなわち炎症マーカーの減少がスコアと改善しているので予想通りであった。しかしこれらを患者全体と肺結核で詳細に検索すると、患者全体では初診時のTr-Gal9値とスコアが正相関した。その相関は図4のようにROC解析でもAUCが0.7402と中等度の相関でp値(two-tailed)で0.03と有意であることが確認できた。

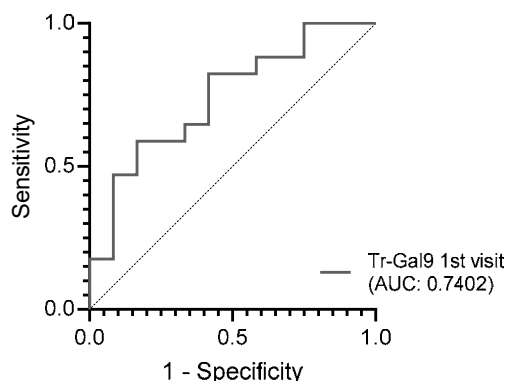


図4 TR-Ga9値とスコア値のROC解析

また肺結核では治療開始時のOPN値が高いほど、スコアが高いことが判明した。以前より結核においてはOPN値がメモリーT細胞を誘導することが知られていたが、どのような機構で治療機転に貢献しているかは新しい治療法の開発

に繋がる可能性がある。

さらにこのスコア値の高い群(6以上)と低い群で様々な因子を肺結核で解析するとやはりOPN値がスコアの高い群では高いことが判明した。

患者全体ではTr-Gal9がスコアと正の相関をした。Gal-9はTim-3と結合することによりT細胞のapoptosisを誘導することから免疫チェックポイント因子として注目されてきている。我々はエイズや結核のみならず、様々な熱帯感染症でGal-9を測定してきた。デング熱においては、Gal-9値は重症度にかかわる、血小板値と逆相関することより重症度マーカーとして報告した。またマラリアでは重症型のほうが、軽症型よりもGal-9値は高くやはり重症度マーカーであることを明らかにしてきた。

しかし異なる測定試薬を使用すると下記のようにTr-Gal9として、全長型と分解型の両方を測定することができることが判明した(図4)。

DOI: 10.3390/ijms22094978

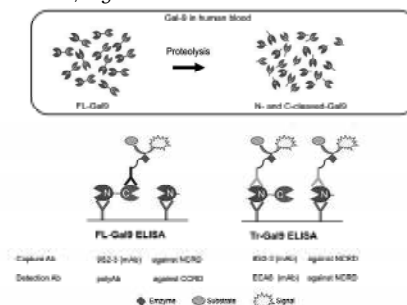


図5 Gal-9測定のための二つのELISA系

また最近になり切断型のみの測定値がよりよく重症度を反映することも報告した。

DOI: 10.3390/ijms24043591

今後様々な疾患で、切断型Gal-9の意義を検討していきたい。

謝辞: 本研究は保健福祉研究所準研究員 白高娃、穂積紘子、九州保健福祉大学 松葉隆司先生、インド国立エイズ研究所 Ashwini 先生、Sandip 先生、JICA 草の根事業の協力によりなされた。

大学生を対象とした模擬避難所合宿訓練

橋本 翠

吉備国際大学、心理・発達総合研究センター

本研究センターでは、心理・発達領域の知見をもとに、様々な基礎研究ならびに応用研究を実施している。本稿では、令和3年度吉備国際大学SDGs教育研究活動助成金、および令和3年度ウエスコ学術振興財団研究費の助成を受けて実施した大学生を対象とした模擬避難所合宿訓練による成果を報告する。

キーワード：模擬避難所，防災，減災，正常性バイアス

近年，地球温暖化による異常気象に伴い，未曾有の自然災害が多発している。全国各地，どこで起きてもおかしくない災害であるが，水害では逃げ遅れて屋根上で助けを求めている，土砂災害に家屋が巻き込まれたりなど，その度に同じような光景を目にすることもまた事実である。なぜ逃げないといけなと分かっているのに逃げないのか。この解釈としてこれまでよく取り上げられてきたのが「正常性バイアス」である。正常性バイアスとは，異常を正常の範囲内のことと捉えてしまう錯誤である(木村，2016)。この言葉は，防災領域に限った言葉ではないが，近年，災害が起こるたびによく耳にするようになり，多くの人に周知されつつある言葉である。

ここで問題にすべきは，ヒトには「正常性バイアス」というバイアスが備わっていることを各自が認識できているかということである。いつもと違う危機迫る状況下でも，「でも自分は大丈夫」と考えてしまう傾向があるということを知っているか否かということは，避難行動の促進に多大なる影響を与える。ヒトの認知的特性とともに，防災・減災についての具体的な知識を身につけることが，防災・減災への近道ではないかと考えている。

そこで，本研究では，大学生を対象に模擬避難所における防災宿泊訓練を実施した。本研究

の目的は，ヴァーチャル・リアリティ(VR)を用いた模擬災害体験や防災教育(災害時の被害を最小限に抑えるための対策や問題点，避難行動の問題点，迅速な避難に必要な取り組みなど)に関する情報収集の方法，情報交換・情報提供の種類など)，そして模擬避難所体験により，防災・減災に対する意識を高めることであった。

方 法

実施日時 2022年6月11日(土) 15:00-12日(日) 10:00 の1泊2日で実施した。

参加者 吉備国際大学学部生(1年生4年生)14名(内，学生スタッフ1名)，大学院生1名(学生スタッフ)，教員3名の計18名が参加した。

持ち物 防災リュック(配布)，バスタオル，防寒具など。

防災意識尺度 防災科学技術研究所 災害過程研究部門が作成した6件法(1まったくあてはまらない～6とてもよくあてはまる)，20項目の尺度(最高得点120)を用いた。

訓練スケジュール Table 1 参照。

Table 1 タイムスケジュール

2022年6月11日(土)	
15:00	集合・研修の説明，注意事項等
16:00	防災意識調査の実施・防災教育(講義)
17:00	グループワーク(台風を想定したタイムライン作成)
19:00	防災リュック配布・中身確認/夕食(防災リュックの中に入っている食事)
20:00	模擬災害体験(VR)段ボールベッド製作体験
22:00	就寝
2022年6月12日(日)	
7:00	起床/朝食準備
8:00	合宿訓練のまとめ/意見交換/防災意識調査の実施
10:00	片付け/解散

防災教育 「防災・減災を心理学から考える」というタイトルで，教員が講義を実施した。

タイムライン作成 マイタイムライン検討ツール「逃げキット」(一般財団法人河川情報センター)の「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでのタイムラインをグループで作成した。

模擬避難所 吉備国際大学心理・発達総合研究センター3階の大教室を模擬避難所として使用した。想定した災害は，自宅で過ごすことができなくなるような大災害に見舞われたという設定であった。

模擬災害体験(VR) 西日本豪雨災害体験VR(田中電気株式会社)を用いた。

段ボールベッド作成体験 段ボール6個を組み合わせて横120cm×縦180cmの段ボールベッドを作成し、睡眠時には実際に使用した。



合宿訓練のまとめ 防災教育、タイムラインの作成、防災体験(VR/ベッド作成/模擬避難所)、睡眠および食事について自由記述を求めた。

結果

防災意識尺度 合宿訓練前後で防災意識尺度得点の変化について、対応のある t 検定を実施した。その結果、 $t(13) = 3.76, p < .01$ で有意であり、合宿前(79.8)よりも合宿後(92.1)で得点が上がっていることが示された。

自由記述のまとめ 「防災教育」、「タイムラインの作成」、「防災体験(VR/ベッド作成/模擬避難所)」、「睡眠および食事」についての自由記述について、KH Coder を用いてキーとなる語句を抽出し、それぞれ共起ネットワークを作成した。本稿では、「防災体験(Figure 1)」および「睡眠・食事(Figure 2)」についてのみ報告する。

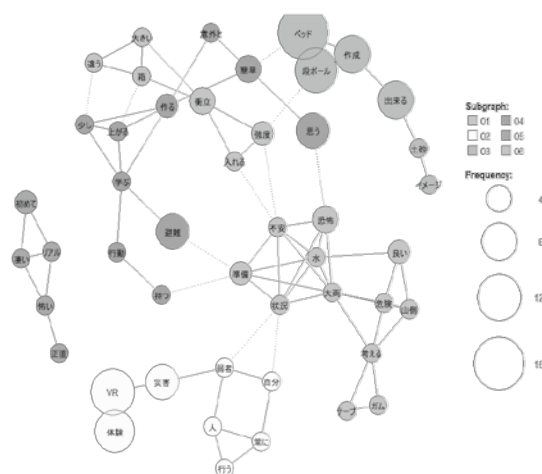


Figure 1. 防災体験における共起ネットワーク

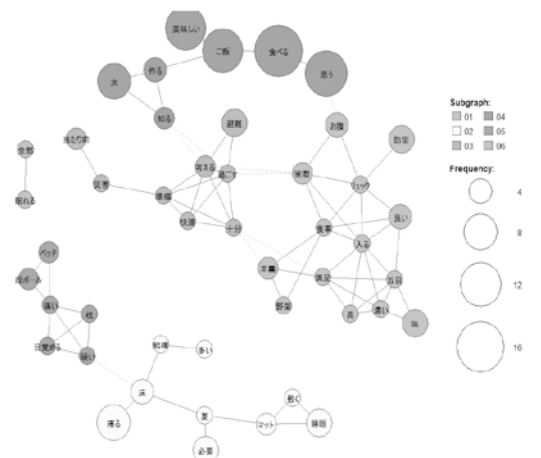


Figure 2. 睡眠・食事における共起ネットワーク

考察

本研究の目的は、大学生を対象に大災害を想定し、実際に避難所での生活を体験することで、防災・減災に対する意識を高めることであった。

1泊2日の合宿訓練であったが、できる限り実際の避難所を体験できるように生活行動に制限をかけて実施した。防災意識尺度の結果から、短時間、短期間であっても実際に様々な体験をすることで、より防災・減災に対する意識を高められることが明らかになった。

また、合宿での体験についての自由記述を分析した共起ネットワーク図は、どんな単語が同じコメント内に出現していたかを、視覚的に分かりやすく示すためのものである。「防災体験」(Figure 1)からは、段ボールベッドの作成を体験したことでより避難のイメージが持てるようになったこと、VR体験をすることで災害を自分のこととして捉えることができるようになったことが推察される。さらに、「睡眠・食事」(Figure 2)からは、多くの参加者が水で作るご飯が想像以上に美味しかったと感じていたことが明らかとなった。

このように模擬的ではあるが実際に避難体験してみることは、防災・減災の意識を高めるための非常に有効な手段であることが示唆された。1泊2日という短期間の経験であっても、定期的に継続していくことで、大災害の危機的状況を身近に感じるとともに、避難行動開始の閾値を低下させ、早めの避難行動の促進に繋がっていくと考える。今後もこのような活動を、本学学生だけでなく、地域の方々を巻き込む形で広げていきたい。

吉備津神社に奉納された横綱 千代の富士の優勝額の修復

大原 秀行

吉備国際大学、文化財総合研究センター

令和4年8月、かつて両国国技館内に掲額されていた横綱千代の富士の優勝額が、修復のため岡山市の吉備津神社から吉備国際大学文化財総合研究センターに搬入された。

搬入された優勝額は、計31回の幕内最高優勝を記録した大相撲第58代横綱である千代の富士が、昭和61年(1986年)1月場所において15回目の優勝をした際に毎日新聞社から贈呈されたものである。

その後5年以上両国国技館内に掲額された後、千代の富士の後援会を通じて吉備津神社に奉納され、30年以上神社内に展示されていた。

しかしながらその後、神社における温湿度の問題により、作品の退色と変色が生じてしまったために大掛かりな修復が必要となった。

なお、優勝額とは優勝した力士の勇姿を描いた絵とその額縁を合わせたものである。

キーワード: 優勝額、吉備津神社、千代の富士、修復

【優勝額と吉備津神社】

優勝額は、大正時代後期には優勝力士に渡されていたようだが、寸法は今のものよりかなり小さかったらしい。現在の優勝額は、縦317cm、横225.5cmと非常に大きいものであり、昭和26年(1951年)1月場所(当時春場所)の優勝力士の照国以降は、大きく引き延ばされた白黒写真に彩色家・佐藤寿々江が油彩絵具で着色して仕上げていた。

優勝額は、国技館の掲額が終わった後、優勝力士に返却される。その後その力士の所属する相撲部屋に飾られたり、力士が引退後に経営する飲食店等の壁面に飾られることが多いが、今回の優勝額のように後継者の手に渡って、その

後の行先が決まることもある。特殊なケースでは、両国国技館の隣のJR両国駅改札口に、千代の富士はじめ三重ノ海、白鵬、武蔵丸、二代目若乃花ら5力士の優勝額がまとめて壁面に飾られている。

今回奉納された吉備津神社は、平安時代に建立された古社である。現在に至るまで2度もの火災に見舞われたが、1425年室町幕府三代将軍足利義満が、天皇の勅命により約25年の歳月をかけて再建され、以来解体修理もなく壮大な姿で現存している由緒ある神社である。

【修復作業】

まず、優勝額の調査を行った。優勝額の絵は、格子状の木組みにベニヤ板を糊付けし、その上に支持体が紙である印画紙を張り、そこに油彩絵具で着色したものと思われる。

調査段階で、JR両国駅構内に飾られている昭和60年11月場所の千代の富士の優勝額との比較が参考になった。この優勝額は今回修復する優勝額とほぼ同時期に制作されたものであるにも関わらず、色彩が非常に鮮やかに残っている。一方、修復する優勝額には格子状の木組みの跡がはっきりと画面に現れ黒ずんでいる。また、被写体である千代の富士の顔面及び肌の色が抜け落ち、血の気が失せたように見えてしまっている。化粧まわしの色彩も退色が激しく、白麻のしめ縄も紙垂も部分的に黒ずんでしまっている。変色(黒ずみ)の原因は格子状の木枠にベニヤ板を接着した際に使用した接着剤の中に含まれる有機溶剤の影響によるものと考えられ、また着色部の極度の色褪せは、紫外線によるものの以外に高湿度環境も影響していると判断した。これは、吉備津神社に移送後、両国国技館内よりもはるかに高い湿度で、約30年もの間、作品を傷めつけた結果、表面の顔料が流れ落ちてしまったと考えられる。接着剤の中の有機溶剤による変色、また高湿度で流れ落ちてしまった色彩は残念ながら通常の修復処置では元に戻すことは出来ない。今回は色が落ちてしまった部分に、新たに色を加える手法を用いた。油彩の上から水溶性アクリル絵具を薄く溶いて幾重にも重ねて、あくまでも残っているオリジナルの彩色を傷めないように補彩を繰り返す。

次に作品の裏側であるが、ここにはベニヤ板

の上にクラフト紙が貼られており、その紙の上には、吉備津神社へ奉納した千代の富士の後援者の名前が大きく記載されているため、本体の修復と共に保存する作業にかなりの時間を要している。

今回千代の富士の優勝額という非常に珍しい作品を修復していることから、地域貢献の一環として、近隣の住民の方々にも見ていただけるように文化財総合研究センターを開放する「オープン修復現場」を令和4年12月に行った。

また、優勝額修復についてマスコミにも取り上げていただき、山陽新聞、読売新聞では岡山版、また毎日新聞では令和5年1月17日付けの全国紙に大きく記事が掲載された。

なお、この修復作業は文化財総合研究センター客員研究員の大原秀行を中心に、同客員研究員フェラーリまり子、準研究員の石橋純子の3人で行っている。



修復風景



彩色途中



吉備津神社からの搬出作業



裏面のクリーニング



修復前の優勝額



両国駅の優勝額

溶液栽培におけるミョウガ花蕾腐敗症状から分離された *Pseudomonas* 属細菌について

相野 公孝・津野 翔・村上 二郎
吉備国際大学、植物クリニックセンター

植物クリニックセンターは、地域の生産安定と活性化に寄与するために、植物の病害虫診断・対策を行い、地域連携活動を行なっている。本年度は、ミョウガに発生した障害について、その原因を解析し、原因菌を特定したので報告する。

キーワード: ミョウガ、腐敗症状、溶液栽培、*Pseudomonas*、病原性

【研究背景】

高知県ミョウガ栽培において、特に溶液栽培ハウスでミョウガの花蕾が腐る症状が発生し、重大な被害となっている。症状として、6月中旬頃から花蕾基部にやや褐色、水浸状の小斑点が形成され、その後、拡大し花蕾全体が軟化腐敗する。腐敗の進行は速やかで、高温時は発病から5日程度で花蕾全体が腐敗し、商品価値が極めて低くなる(写真1)。



写真1 ミョウガに発生した腐敗症状
A: 健全株、B: 発症株

【方法および結果】

1) サンプル採取

腐敗症状がみられるミョウガ花蕾を、高知県須崎市のミョウガ溶液栽培ハウスで、2021年6月14日に採取した。腐敗部分と健全部分の境をメスで切り取り、生物顕微鏡で検鏡した結果、多量の細菌の噴出を確認することができた。このことより本症状は細菌によって引き起こされる可能性があると考えられた。

2) 細菌の分離

菌の分離方法は、標準培地を用いて腐敗部位

を切り取り、5mlの殺菌水に懸濁し、激しく振とう、細菌を殺菌水中に懸濁させた。懸濁液を白金耳で培地上に画線した。処理を行ったシャーレは25℃で24時間培養した。培養により生じたコロニーを殺菌爪楊枝で単コロニー分離を行った。

この分離作業から、34菌株を分離することができた。分離菌株は殺菌した15%グリセロール溶液に懸濁し、-20℃で冷凍保存を行った。

3) 腐敗性の確認

分離菌株を標準培地で培養、培養24時間後に滅菌爪楊枝を用いてミョウガ花蕾3箇所に接種し、湿らせたキムタオルの上に置いた。乾燥を防ぐためにサランラップで覆い、28℃の人口気象器で培養した。培養2日後に腐敗症状の確認を行った(写真2A)。

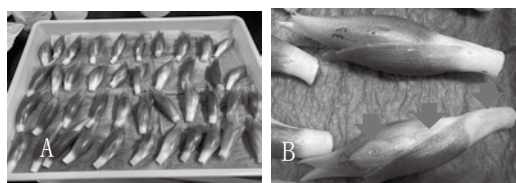


写真2 ミョウガ花蕾への分離菌の接種
A: 接種直後、B: 接種2日後

写真2Bに示した様に、腐敗症状(矢印)を示した11菌株が確認された。腐敗の程度はそれぞれの株で異なっていた(図1)

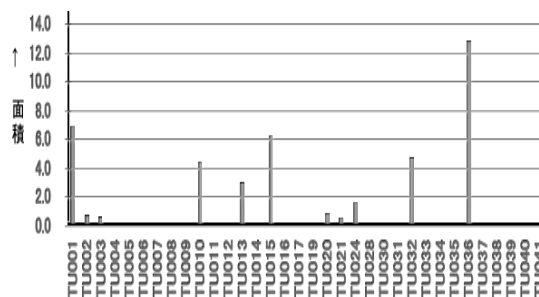


図1 分離菌株のミョウガ花蕾腐敗程度

4) 分離菌株の酵素活性及び資化性

分離菌株の資化性・酵素活性を調べるために腸内細菌簡易同定キットアピ20Neを用いた。検定菌株は全分離菌株を対象に、標準培地で培養24時間後、マニュアル通りに処理を行った。蛍光色素産生については、キングB寒天培地を用いて培養24時間後に、405nmの紫外光を当て色素産生の有無を確認した。オキシダーゼ活性は、1%テトラメチルパラフェニレンジアミン2塩酸塩溶液で湿らせたろ紙に菌体を塗布し、青色発色で判定した。

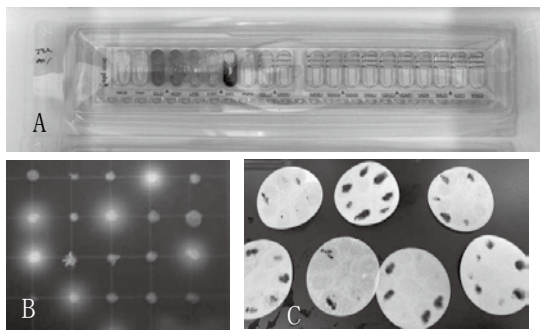


写真3 分離菌株の性状調査

A:アビ20Ne, B:キングB寒天培地上での蛍光発色, C:オキシダーゼ活性、青変した菌株は陽性

その結果、ミョウガ花蕾に腐敗症状を示した11菌株の資化性・酵素活性及び蛍光性色素産生が同一であることが確認された(表1)。

表1 腐敗症状を示した菌株の資化性・酵素活性

調査項目 菌株番号	硝酸塩の還元	インドール産生	アルギニンヒドロラーゼ発酵	β-グルコシダーゼ	β-ガラクトシダーゼ	β-プロテアーゼ	蛍光色素産生	オキシダーゼ活性	グルコース	アラビノース	マンニトール	N-アセチルグルコサミン	マルトース	グルコン酸カリウム	カプリン酸	アジピン酸	リンゴ酸	酢酸フェニル
TU001	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
TU002	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
TU003	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
TU010	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
TU013	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
TU015	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
TU020	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
TU021	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
TU024	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
TU032	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
TU036	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

3) 分離菌株の遺伝子診断

ミョウガ花蕾に腐敗症状を示し、資化性・酵素活性が同一であった11菌株の中からTU001、TU032、TU036を代表菌として16SリボソームRNA遺伝子の5'上流500塩基のシーケンスとMicroSEQIDソフトウェアによる検索を行い、相同性の調査を行った。

表3に塩基配列を基にした相同値を示した。左の表はTU001、TU032、右の表はTU036の調査結果である。TU001、TU032、TU036ともにほぼ同じ結果となった。これらの菌株は*Pseudomonas fluorescens* グループに含まれると推測された。

【考察】

ミョウガ花蕾に腐敗症状から34菌株を分離する事ができ、ミョウガに対する腐敗能力を調

表2 16S リボソームRNA 遺伝子塩基配列の相同値
左: TU001, TU032, 右: TU036

相同値 %Match	Sequence Entry	相同値 %Match	Sequence Entry
100.00	<i>Pseudomonas fluorescens A</i>	100.00	<i>Pseudomonas fluorescens A</i>
99.89	<i>Pseudomonas cedrina cedrina</i>	99.89	<i>Pseudomonas cedrina cedrina</i>
99.82	<i>Pseudomonas mucidolens</i>	99.82	<i>Pseudomonas mucidolens</i>
99.82	<i>Pseudomonas syzyanthi</i>	99.82	<i>Pseudomonas syzyanthi</i>
99.82	<i>Pseudomonas gessardii</i>	99.82	<i>Pseudomonas gessardii</i>
99.82	<i>Pseudomonas libanensis</i>	99.82	<i>Pseudomonas libanensis</i>
99.58	<i>Pseudomonas azotoformans</i>	99.58	<i>Pseudomonas azotoformans</i>
98.56	<i>Pseudomonas brenneri</i>	98.57	<i>Pseudomonas brenneri</i>
98.56	<i>Pseudomonas fluorescens C</i>	98.57	<i>Pseudomonas fluorescens C</i>
98.56	<i>Pseudomonas panacis</i>	98.57	<i>Pseudomonas panacis</i>

べた結果、11菌株に腐敗能力を認める事ができた。分離菌株の資化性・酵素活性を調査した結果、腐敗能力を示した11菌株は、全ての項目で一致した。このことより11菌株は同属同種の菌と考えられた。11菌株の中からTU001、TU032、TU036株を選び、16SリボソームRNA遺伝子を用いたシーケンスを行った結果、3菌株とも*Pseudomonas fluorescens* グループに含まれることが判明した。*Pseudomonas fluorescens* グループは2000年に16S rRNA系統解析により、*Pseudomonas fluorescens* グループという分類群が作成され(Anzai, et al. 2000)、本グループは、基本的に植物に対する病原性が無いとされている。しかし、1993年にトマト茎えそ細菌病の病原菌の1つに*Pseudomonas fluorescens* biover 2が報告されている(白川その他、1993)。今後、さらに詳細な分類を行う必要があるとともに、病原性の有無について、これまでに報告のある*Erwinia chrysanthemi* によるミョウガ軟腐病(Adachi、Morita、2013)との比較検討が必要だと考える。

【参考文献】

- 1) Adachi Gappa Rie、Morita Yasuaki、(2013) Bacterial soft rot of myoga caused by *Erwinia chrysanthemi*. J Gen Plant Pathol 79:270-276
- 2) Anzai Y.、Kim H.、Park J.、Wakabayashi H.、Oyaizu H. (2000) Phylogenetic affiliation of the pseudomonades based on 16s rRNA sequence. Int j J Syst biolpgy 50:1563-1589
- 3) 白川 隆、尾崎克己、高橋和夫 (1993) *Pseudomonas fluorescens* biover II によるトマト茎えそ細菌病の発生. 北日本病虫研報 44:53-55

第3部

SDGs教育研究推進

・圃場の邪魔者、雑草から香りを抽出する

農学部 准教授 氷見 英子

圃場の邪魔者、雑草から香りを抽出する

氷見 英子
吉備国際大学、農学部
地域創成農学科

農業生産者の方々にとって、雑草防除・除草作業は農作業の中でも大きな労力を占めるものである。除草剤散布により除草作業の労力は軽減傾向にあるが、除草剤の多用による環境への影響や除草剤耐性を持つ雑草の出現なども懸念されている。本研究ではいわゆる「雑草」を単に駆除するのではなく、それぞれの植物種が持つ芳香物質の抽出により、邪魔な存在から貴重な資源となりうる可能性を模索した。また本研究では「雑草」と一括りにされがちな植物それぞれについて分子生物学的手法により植物種を同定し、どのような種類の植物が生育しているかについても調査を行った。

キーワード：芳香化合物、外来植物、水蒸気蒸留、DNA バーコーディング、PCR

【実験方法】

調査地は兵庫県南あわじ市の吉備国際大学農学部志知キャンパス内の圃場(通称グラウンド圃場)である。圃場内に生育している植物を9月15日および10月5日に計16種類採取した。それぞれの植物の葉の一部はプラスチックチューブに入れ、DNA抽出用に -80°C で保存した。水蒸気蒸留用に用いる材料はプラスチックバッグに入れて -20°C で保存した。

DNA抽出にはDNA すいすい P(株式会社リーゾ)を用いた。得られたDNAは $20\text{ng}/\mu\text{l}$ に濃度を調整したのち、PCRの鋳型とした。PCRの反応液組成は、 $1\times\text{buffer}$ 、 $0.2\mu\text{M}$ プライマー、Tks Gflex DNA ポリメラーゼ(タカラバイオ)、DNA (20ng)である。本研究で用いた3種類のプライマー(rRNA, rbcL, matK) およびPCR条件は正村らおよびJamdateらの報告に従った。反応後のPCR液の一部を電気泳動にて確認し、ExoSAP IT (Thermo Fisher)でクリーンアップしたのち、DNA シーケンス解析を株式会社ファスマックに委託した。得られた塩基配列は Basic Local Alignment Search Tool (BLAST; <https://blast.ncbi.nlm.nih.gov/Blast.cgi>)

で植物種を検索した。

香気成分の抽出には水蒸気蒸留装置(株式会社桐山製作所)を用い、セイタカアワダチソウ、ナルトサワギクおよびハルシヤギクの花をそれぞれ約200g使用して水蒸気蒸留を行った。

【結果】

9月15日に13種、10月5日に3種の植物を圃場で採取した(図1)。



図1. 2022年9月から10月に圃場で生育していた16種の植物。
Bar = 10cm

これらの植物から抽出したDNA およびコムギのDNAを用い、リボソームRNA 遺伝子 (rRNA)、葉緑体ルビスコラージサブユニット遺伝子 (rbcL)、葉緑体マチュラーゼ遺伝子 (matK) のプライマーを用いてPCRを行った。その結果、rRNA および rbcL プライマーでは全ての植物種で増幅が見られた(図2上)。一方、matK プライマーを用いた場合、植物種によっては増幅が不十分であった(図2下)。

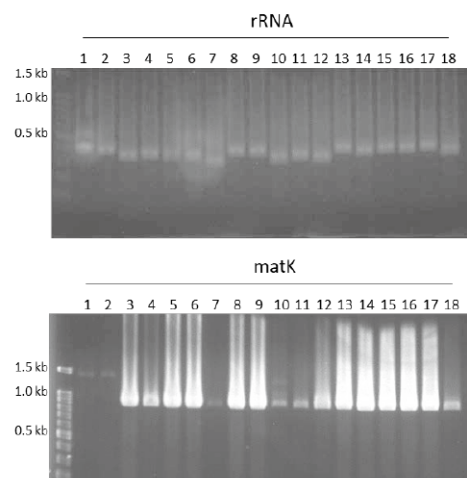


図2. 圃場から採種した16種の植物(レーン1から17)およびコムギ(18)の葉から抽出したDNAを鋳型に行ったPCR。
上: rRNA, 下: matK

PCR産物の塩基配列を解析した結果を表1に示す。rRNAでは細かく植物種が同定できたが、rbcLおよびmatKの塩基配列は近縁種で共通しているために区別できない傾向が見られた。この結果から、rbcLやmatKは大まかに属などの分類をすることは可能であるが、細かく同定したい場合はrRNAのほうが正確であることがわかった。

表1. PCR産物の塩基配列による各植物種の同定

植物	学名	和名
1	<i>Euphorbia maculata</i>	コニシキソウ
2	<i>Euphorbia</i> sp. <i>Arechi-nishikiso</i>	アレチコニシキソウ
3	<i>Portulaca oleracea</i>	スベリヒユ
4	<i>Oxalis corniculata</i>	カタバミ
5	<i>Physalis acutifolia</i>	ナガエノセンナリホオズキ
6	<i>Physalis angulata</i>	ヒロハフウリンホオズキ
7	<i>Rumex japonicus</i>	ギンギン
8	<i>Artemisia</i> sp. <i>Ikuchijima</i>	ヨモギ
9	<i>Erigeron canadensis</i>	ヒメムカシヨモギ
10	<i>Commelina communis</i>	ツクサ
11	<i>Eleusine indica</i>	オヒシバ
12	<i>Digitaria ciliaris</i>	メヒシバ
13	<i>Ambrosia artemisiifolia</i>	ブタクサ
14	<i>Persicaria longiseta</i>	イヌタデ
15	<i>Solidago canadensis</i>	セイタカアワダチソウ
16	<i>Amaranthus cruentus</i>	スギモリケイトウ
17	<i>Senecio madagascariensis</i>	ナルトサワギク
18	<i>Triticum aestivum</i>	コムギ

植物の香りの成分は葉や種にも蓄積されているが、多くの植物では花に特徴的な香りがある。そこで本研究ではセイタカアワダチソウ、ナルトサワギクおよびハルシャギクの花を用いて水蒸気蒸留を行った(図3)。



図3. セイタカアワダチソウの花を用いた水蒸気蒸留

セイタカアワダチソウおよびハルシャギクの抽出液は強い香りがしたが、ナルトサワギクの抽出液はほとんど香りがしなかった。また17名(男性11名、女性6名)に香りについてコメントしてもらったところ、セイタカアワダチソウは「シュンギクのような匂い」が大半で、あまり好ましくないという意見が多かった。一方ハルシャギクでは華やかな香りで好意的な意見が多かった。今後はこれらの抽出液の成分を解析し、どのような香氣成分が含まれているのかについて解析する予定である。

【考察】

これまで植物の同定は外観からの判断が一般的であった。近年、rRNAなどの遺伝子配列のデータベースが充実していることから本研究ではPCR産物の塩基配列解析による生物種の同定、つまりDNAバーコーディングを簡便に行うことができた。一方、データベースはすべてを網羅しているわけではないため、古典的手法も並行して行うべきである。今回は秋から実験を開始しているが、春や夏に圃場の「雑草」を採取した場合、異なる植物種が多数得られると予想される。同じ場所であっても、一年を通して植物種がどのように変遷するのかは興味深く、今後の課題である。

本研究では花のみを水蒸気蒸留の対象としたが、葉など別の部位からも香氣成分が抽出できる可能性がある。雑草と言われ邪魔者扱いをされている植物から好ましい香り(アロマ)を抽出できれば、地域の特産品など貴重な資源になると期待できる。

【参考文献】

- 正村典也, 菊池亮, 永富靖章. ITS1塩基配列による植物性異物同定方法の開発. 分析化学. 2014年63巻3号p. 245-253.
- Jamdade R., Mosa K., El-Keblawy A., Shaer KA., Harthi EA., Sallani MA., Jasmi MA., Gairola S., Shabana H., Mahmoud T. DNA Barcodes for Accurate Identification of Selected Medicinal Plants (Caryophyllales): Toward Barcoding Flowering Plants of the United Arab Emirates. Diversity 2022, 14(4), 262.

第4部

地域貢献教育研究推進

・高梁まるごとキャンパスプロジェクト～つなげる・リノベプロジェクト～

社会科学部 講師 大西 正泰

高梁まるごとキャンパスプロジェクト ～つなげる・リノベプロジェクト～

大西 正泰
吉備国際大学、社会科学部
経営社会学科

本プロジェクトは、利用機会の少ない空間や自治機能が落ちているアパートの改修、BBQなどの祝祭的なイベントを通じて、自らが担い手となって、社会関係資本をつなぎなおし、コミュニティが生まれてくることを目的に行ったものである。こういったコミュニティでの、いわば空間をリデザインする営みを通じて、学生たちが学べる営みは、地域にとってはコミュニティの再生につながり、本学学生にとっては、学びの場としての機能を持つ。こういった学びの機能をもったコミュニティのことは「実践共同体」と呼ばれている。地域が学びの場となり、地域が学生にとっての、もう一つのキャンパスになるような仕掛けとして、本プロジェクトを行った。

キーワード：DIY、社会関係資本、コミュニティ再生、実践共同体。

本プロジェクトでは、①「つなげるプロジェクト」(すでに住んでいるアパートの学生や社会人を招いて、アパートでの関係性を再構築する(BBQなどを催す)と、②「リノベプロジェクト」(空き室をリノベーションし、塗装の禿げた外装などを修復し、きれいな状態に直し、コミュニティハウスにつながる素地を作る。)を作業内容として行う予定だった。実施にあたって、①については、高梁市本町地区にある高梁市商家資料館池上邸(高梁市本町94)、①②について、高梁市和田町にあるアパートエグゼブルイノウエ(和田町3953-1)のご協力を得て行うことができた。

1) 実践報告①「池上邸」

池上邸は、江戸時代に財を成した豪商池上家の家を、平成24年11月から無料休憩所として一般公開されている。古い街並みを残す、美し

い建物でありながら、ほとんど活用されず、また学生アパートなどもある本町地区ではあるが、地域住民の高齢化にともない、コミュニティの形成も弱まってきた中で、利活用策が求められていた。これらのことから、本町地区に住む地域住民や学生、大西ゼミをもとに、地域の声をヒアリングする会を行った。

<つなげるプロジェクト>

期日；2022年11月14日 場所；池上邸中庭

内容；地域自治会、高梁市観光課のみなさんとのスリランカ・インドネシア・ベトナム料理を囲んでのワークショップ



<結果>

池上邸の利用について、さらに12月に地域のかたを招いて、池上邸再生計画などを行う予定だったが、コロナの第8波の影響で、2回目以降の開催は行えなかった。しかし、高梁市役所観光課のみなさんから、今後のプロジェクト継続を打診されていて、継続して行う予定である。

<スピンオフ>

BBQ道具がそろったことから、つながりを作るのに効果のあるフリーコーヒーイベントを屋台を使って行った。6号館1階を借りて、無料でコーヒーをふるまい、いつも話をしない人た

ちが集い、会話をするという社会実験を1月31日11時から13時までに行った。教職員学生などのべ60人ほどが訪れ、利用していただいた。会話も多くとびかい、経営社会のみならず、アニメーション学科、看護学科の学生なども多く立ち寄ってくれた。



<リノベプロジェクト>

実践報告②「エグレブルイノウエ」

期日；2022年12月～2023年3月

場所；高梁市和田町3953-1

エグレブルイノウエアパート1F

内容；空き室の多いアパートの2部屋をつなぎ、キッチン进行改装。アパート住人だけでなく、地域のみなさんとの交流拠点、あるいは起業の練習ができる場所として改装中。

<結果> *現在も进行中。

アパート住人（高梁市役所など）2名と本学ゼミ生2名を中軸に、いろいろな人が参加して行っている。DIYの内容としては、キッチンの拡張工事、壁紙の再生、水栓などの取り換え、玄関の再塗装などを行っている。今回の事業費では、壁紙、水栓、塗装などの費用をだしている。

進捗としては（2月9日現在）、キッチンの拡張工事が終わり、壁紙の張替えを行っている。

3月中旬にすべての工事を終わらせる予定。

（壁紙交換の様子）



（キッチン改修の様子）



キッチンの屋根を取り払い、あらためて、断熱材をいれて、再度屋根を作り、キッチン空間をつくりなおしている。



<最後に>

本プロジェクトにおいて、高梁市本町地区、和田町地区で、プロジェクトを稼働させることができた。これらのプロジェクトがかすがいになって、多くの人に興味を持たれ、つながりが広がっていくことで、各自が次のコミュニティで独自に活動を行っている。今回のプロジェクトも、学生同士でも話がなされ、広がりを見せつつある。本学科の日本人学生は、まちづくりだけでなく、大学以外の活動に参加する姿勢に乏しい面があるが、少しずつ、こういった活動を通じて、高梁市のいろいろな場面で、学びの場が生まれることで、大学が寄与できる社会関係資本を構築していきたい。

第5部

令和4年度 研究実績

- ①学術論文
- ②雑誌投稿等
- ③講演・口頭発表
- ④著書、作品等
- ⑤その他

令和4年度 社会科学部 研究活動実績報告

① 学術論文

著者名、論文題名、誌名、巻数、号数、はじめのページ - おわりのページ (出版年)

経営社会学科

1. 赤坂真人「伝統的社会理論の終焉と再生」『吉備国際大学社会学研究論叢』第22号, pp1-15. (2022年)
2. 大西正泰「授業・ゼミ・実践共同体をつなぐ「デザインされた越境学習」の可能性」吉備国際大学研究紀要(人文・社会科学系)、第33号、125-140. (2023)
3. 姜明求・崔 瑞玟、中国市場における韓国商品の信頼度の比較(上海と河南省) 吉備国際大学研究紀要(人文・社会科学系)、32号、pp.35-48、2022年
4. 黒宮亜希子、中山間地域における生活支援サービスニーズに関する研究：地理情報を活用して、吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要、第23号、17-24 (2022)
5. 黒宮亜希子、地域アセスメントにおける地理情報活用に関する現状と課題：社会福祉分野を対象として、吉備国際大学研究紀要 (人文・社会科学系)、第33号、印刷中 (2023)
6. 秀真一郎・横松友義・西山修、保育者による受容に関わる多次元効力感尺度の開発—保育実践での活用を目指した検討—、応用教育心理学研究、第39巻、第1号、67ページ—80ページ (2022年)

スポーツ社会学科

7. Nishimura K, Tamari Y, Yamaguchi H, Onodera S, Nagasaki K. Examination of sleep factors affecting social jetlag in Japanese male college students. Chronobiology International. 1-7. (2022)
8. 浮田優香, 和田拓真, 高原皓全, 石本恭子, 吉岡哲, 山口英峰, 小野寺昇. 低登山が心拍数, 血圧及び心臓の位置変化に及ぼす影響. 川崎医療福祉学会誌. 32(1). 179-183. (2022)
9. 西村一樹, 玉里祐太郎, 山口英峰, 小野寺昇, 長崎浩爾. 男子大学生における起床, 就寝時刻の週内変動と社会的時差ボケの関係. 日本生気象学会雑誌. 59(1). 15-24. (2022)
10. 幸篤武, 國佐菜, 高原皓全, 天岡寛, 山口英峰. 後期高齢者の質問票と AWGS2019 の地域セッティングに基づく独居女性高齢者の健康課題と身体機能特性：過疎中山間地域を対象とした横断的検討. 日本サルコペニア・フレイル学会誌. 6(1). 70-72. (2022)
11. Takahara T, Yamaguchi H, Seki K, Onodera S. Modulation of subjective peripheral sensation, F-waves, and somatosensory evoked potentials in response to unilateral pinch task measured on the contractile and non-contractile sides. PLOS ONE. 17(4). e0261393-e0261393. (2022)
12. 孫基然. 古医書における纂の字義及びそれに関連する諸問題. 日本伝統鍼灸会学雑誌, 49(1).34-59. (2022)

② 雑誌投稿等 著者名、論文題名、誌名、巻数、号数、はじめのページ - おわりのページ(出版年)
③ 講演・口頭発表 発表者名、演題、発表学会等又は要旨集等名、はじめのページ - おわりのページ(発表年。月)
経営社会学科 1. <u>井勝久喜</u>、SDGs の視点から持続可能な地域づくりについて考える、総社ロータリークラブ例会、2022 年 11 月 24 日 (木) 2. <u>井勝久喜</u>、SDGs の視点から持続可能な地域づくりについて考える、知研・岡山 2022 年 11 月講演会、2022 年 11 月 25 日 (金) 3. <u>井勝久喜</u>、SDGs と地域づくり、高梁商工会議所女性会講演会、2022 年 12 月 2 日 (金) 4. <u>井勝久喜</u>、海ごみ・プラごみを削減し、持続可能な社会に向けた教育の役割、海ごみ・プラごみ削減フォーラム in おかやま、2023 年 2 月 26 日 (日) 5. <u>大西正泰</u>「観光ビジネス」倉敷鷺羽高校、2022 年 5 月 31 日 6. <u>大西正泰</u>「起業の教科書を作ろう」三好市創業講座、2022 年 7 月 8 日 7. <u>大西正泰</u>「企画書を作る」高梁中学校 2 年、2022 年 9 月 15 日 8. <u>大西正泰</u>「企画書を作る」高梁中学校 3 年、2022 年 10 月 21 日 9. <u>大西正泰</u>「Next 地方創生」備中高梁会議夏、2022 年 9 月 4 日 10. <u>大西正泰</u>「地域づくりと人材育成」津和野会議 2022、2022 年 12 月 3 日 11. <u>大西正泰</u>「自分なりのマイプランへ」高松市まちづくり高校地域づくりチャレンジ塾、2022 年 12 月 8 日 12. <u>大西正泰</u>「Next 高梁まるごとキャンパス」備中高梁会議冬、2022 年 12 月 18 日 13. <u>大西正泰</u>「まちづくりってなあに」政策起業塾、2022 年 12 月 18 日 14. <u>Akiko Kuromiya</u>, A study on food access in depopulated areas in Japan, utilizing Geographic Information System, 2022 Joint World Conference on Social Work Education and Social Development (2022.10) 15. <u>中野明子</u>「自己決定を支えるもの～社会福祉援助の視点から～」(一社)要約筆記者認定協会全国統一要約筆記認定試験の問題作成を目的としたオンラインによる講演の録音 2022 年 1 月 20 日 16. <u>藤井伊津子</u>、こどもと一緒に絵本を楽しむということ、高梁市立有漢こども園教育講演会(子育てカレッジ子育て講座:保護者支援)、2022 年、6 月 17. <u>藤井伊津子</u>、絵本の力を保育の場から家庭へそして地域へ、高梁市保育協議会研修会、2022 年、7 月 18. <u>藤井伊津子</u>、幼児期の発達と児童文化財の関わりー短い文章や絵本の読み聞かせー、高大連携事業:岡山県立高梁城南高等学校出前授業、2022 年、9 月

- 1 9. 藤井伊津子、幼児期の発達と児童文化財の関わり－紙芝居や絵本の読み聞かせ－、高大連携事業:岡山県立高梁城南高等学校出前授業、2022 年、10 月
- 2 0. 藤井伊津子、こどもと一緒に絵本を楽しむということ、高梁市立川上こども園教育講演会（子育てカレッジ子育て講座：保護者支援）、2022 年、10 月
- 2 1. 藤井伊津子、絵本の読み聞かせを通した親子のふれあい、高梁市立備中保育園教育講演会（子育てカレッジ子育て講座：保護者支援）、2022 年、11 月

スポーツ社会学科

- 2 2. 國佐栞, 倉知典弘, 高原皓全, 天岡寛, 山口英峰. 健康教室終了後における継続支援ツールとしての SNS 活用の可能性について. 第 24 回日本健康支援学会年次学術大会. 2023 年 3 月
- 2 3. 幸篤武, 國佐栞, 高原皓全, 山口英峰. 地域在住高齢者における可能性サルコペニアの頻度と心身機能特性. 第 34 回老年医学会四国地方会. 2023 年 2 月
- 2 4. 高藤順. スポーツの価値～スポーツと人権～. 人権講演会（兵庫県たつの市）. 2022 年 11 月.
- 2 5. 山口英峰, 幸篤武, 國佐栞, 村田めぐみ, 高原皓全, 天岡寛, 倉知典弘, 関和俊, 飯田智行, 早田剛, 枝松千尋, 高橋康輝, 小野寺昇. 過疎地域在住者におけるフレイルと身体機能および認知機能との関連について. 第 9 回日本サルコペニア・フレイル学会. 2022 年 10 月.
- 2 6. 安藤耕己, 倉知典弘, 久井英輔, 大蔵真由美, 栗山究, 竹淵真由. 製糸工場内青年学校の成立・展開と戦後の動向－岡谷市吉田館青年学校・吉田館自由学園の事例を中心に－. 日本社会教育学会第 69 回研究大会. 日本社会教育学会第 69 回研究大会要旨集録, 81. 2022 年 9 月.
- 2 7. 黒木悟, 孫基然. 胸椎前嚢胞を伴う線維筋痛症の一症例, 第 72 回日本東洋医学会学術総会講演要旨集, 185. 2022 年 5 月

④ 著書・作品等

著者名、署名、版表示、出版社（出版年）

作者名、作品名、作品発表場所等（発表年、月）

経営社会学科

1. 佐藤 環 監修 田中卓也, 時田詠子, 烏田直哉, 斎藤修啓, 鈴木和正 編著 雲津英子他 著『資料とアクティブラーニングで学ぶ初等・幼児教育の原理』、初版、萌文書林（2022 年）第 9 章「日本の教育の歴史（近代）」（86-99 頁、単著）

⑤ その他の研究業績

経営社会学科

1. 尾嶋史章・轡田竜蔵・西丸良一・多喜弘文・白川俊之・稲元洋輔「高校生の進路選択と生活意識に関する実証的研究：学校パネル調査による長期変動の把握」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2020 年 4 月 - 2024 年 3 月
2. 大西正泰、吉備国際大学地域貢献教育研究費を使って、BBQ と DIY を通じた実践共同体を作り、学生・地域連携を生み出せるように取り組んだ。2022 年 11 月～2 月まで
3. 大西正泰、島根県津和野町で行われる大阪大学などとの共催した国際カンファレンス「津和野会議 2022」のボードメンバーとして企画。津和野高校はじめ、地域関係資本を広げていく取り組みに参加した。
4. 大西正泰、備中高梁会議。高梁市の街づくりに関わるメンバーの事例報告会と勉強会を通じて、高梁市の街づくりのネットワークを太くしていき、また次世代育成を行っているカンファレンス。年間通じて複数回行い、学生たちも多く参加している。また第 3 回では経営社会学科 1 年生が実行委員長として企画・運営するなど、挑戦の場として、広がってきた。
5. 大西正泰、講義「地域課題解決法」にて、雛人形生産日本一の人形の喜峯さんや池上邸の事例を元に、実際に解決方法を考え、企画書にまとめ、提案した。
6. 栗田喜勝・藤井伊津子、「質の高い保育者養成を目指した地域の未就学児子育て家庭（親子）と学生の交流に関する研究(岡山県指令備中局地第 2007 号補助金)」(令和 4 年度出前講座の実践：高梁保健センター：2022 年、6 月、8 月、12 月、成羽こども園：2022 年、7 月、落合児童館：2022 年、10 月、平川いこい家：2022 年、10 月、有漢保健センター：2022 年、12 月)
7. 黒宮亜希子、科学研究費補助金、基盤 C、22K02085、地理情報システム (GIS) を活用した地域アセスメント手法の構築 (2022)
8. 栗田喜勝・藤井伊津子、「質の高い保育者養成を目指した地域の未就学児子育て家庭（親子）と学生の交流に関する研究(岡山県指令備中局地第 2007 号補助金)」(令和 4 年度出前講座の実践：高梁保健センター：2022 年、6 月、8 月、12 月、成羽こども園：2022 年、7 月、落合児童館：2022 年、10 月、平川いこい家：2022 年、10 月、有漢保健センター：2022 年、12 月)

① 学術論文

著者名、論文題名、誌名、巻数、号数、はじめのページーおわりのページ（出版年）

看護学科

1. 竹崎和子・門倉康恵：中山間地域の病院に勤務する看護管理者の COVID-19 による病棟管理の思い, *インターナショナル Nursing Care Research*, 21(4), 1-8 (2022)
2. 中嶋貴子・山下亜矢子・久松美佐子：精神看護学教育における当事者参加型授業による看護学生の学修成果, *インターナショナル Nursing Care Research*, 21(4), 19-28 (2022)
3. 市村美香：基礎看護技術の教科書を用いた静脈怒張法の教授内容に関する検討, *インターナショナル Nursing Care Research*, 21(3), 73-79 (2022)
4. 門倉康恵：終末期がん患者に関わる緩和ケア認定看護師が大切と考えるケア実践, *インターナショナル Nursing Care Research*, 21(3), 1-8 (2022)
5. Akemi Yokomizo, Hiroko Nagae, Rukmali Athurupana, Mikiya Nakatsuka : Collaborative support for child abuse prevention: Perspectives of public health nurses and midwives regarding pregnant and postpartum women of concern, *PLOS ONE*; (in press) open access journal/ DOI:10.1371/journal.pone.0281362
6. 横溝珠実：COVID-19 禍で乳幼児の育児をする母親の近所とのつながりに対する思い, *インターナショナル Nursing Care Research*, 21(3), 35-41 (2022)
7. 岡本さゆり・古城幸子：学生の高齢者理解を多角的に深めるカンファレンスの試みー高齢者のプラス面・マイナス面に着目してー, *インターナショナル Nursing Care Research*, 21 (1), 61-70 (2022)
8. 岡本さゆり・一ノ瀬公美：老年看護学実習において看護学生が主体的に企画・運営したレクリエーション演習の効果ー安全性確保の視点からー, *インターナショナル Nursing Care research* 21(4), 119-127 (2022)
9. 赤澤真旗子・吉田順子：養護教諭による支援の検討-健康相談活動におけるポストベンション-, *日本看護・教育・福祉学研究*, 5 (1), 48-60 (2022)
10. Miwa Fukuoka : Association of Interest in Disasters with an Understanding of Disaster Preparedness in Pregnant Women and Women with Infants, *吉備国際大学研究紀要 (医療・自然科学系)*, 第 33 号, 11-19 (2023)
11. 田中富子・本郷貴士・兼田啓子：新任期の自治体保健師が感じる職務満足の研究, *インターナショナル Nursing Care Research*, 21(3), 91-98 (2022)

- 1 2. **高橋淳**、日本における新型コロナウイルス感染拡大と収束の要因、吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要、22 号、1-15
- 1 3. Shunsuke Yamashina, **Kazuhiro Harada**, Ryo Tanaka, Yu Inoue, Abnormal gait pattern examination screening for physical activity after one year in patients with knee osteoarthritis, Journal of Functional Morphology and Kinesiology, 8, 2023 年
- 1 4. **Kazuhiro HARADA**, Medical Rehabilitation Need, Case Complexity, and Related Issues among Patients in an Acute Stroke Rehabilitation Setting, Physical Therapy Research 25(3), 93-98, (2022 年)
- 1 5. 太田晴之、**齋藤圭介**、**原田和宏**、**京極真**、鉄永倫子、西田圭一郎、千田益生、慢性疼痛患者を対象とした集学的治療における活動能力の経時的推移の類型化に関する検討、日本運動器疼痛学会誌 14、171-181、(2022 年)
- 1 6. 富岡真光、**原田和宏**、山科俊輔、山崎倫、宇治村信明、手術療法後の変形性股関節症患者に対する歩行異常性の観察評価と三次元歩行解析データとの基準関連妥当性の検討、運動器理学療法学 2、(2022 年)
- 1 7. Yu Inoue, Takeshi Imura, Ryo Tanaka, Junji Matsuba, **Kazuhiro Harada**, Developing a Clinical Prediction Rule for Gait Independence at Discharge in Patients with Stroke: A Decision-Tree Algorithm Analysis, Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases ,31(6), 106441, (2022 年)
- 1 8. **Yoshifumi Mori**, Takeshi Oichi, Motomi Enomoto-Iwamoto, Taku Saito. Automatic Detection of Medial and Lateral Compartments from Histological Sections of Mouse Knee Joints Using the Single Shot Multibox Detector Algorithm. Cartilage 13(1): 19476035221074009, (2022.)
- 1 9. **森芳史**. 筋骨格領域の組織・病理画像解析へのディープラーニング技術の応用の現状. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要 23:31-35, (2022.)
- 2 0. **Masaaki Nakajima**, Tomoka Tsuru, Akemi Endo. Sustained Compression with a Pneumatic Cuff on Skeletal Muscles Promotes Muscle Blood Flow and Relieves Muscle Stiffness. Int J Environ Res Public Health. 19(3). (2022). doi: 10.3390/ijerph19031692.
- 2 1. **Motoyoshi Morishita**, Masahiko Okubo, Tatsuro Sekine: Effects of carbonated thickened drinks on pharyngeal swallowing with a flexible endoscopic evaluation of swallowing in older patients with oropharyngeal dysphagia. Healthcare (Basel, Switzerland).10(9):1769-1769. (2022).
- 2 2. Junpei Tanabe, Kazu Amimoto, Katsuya Sakai, **Motoyoshi Morishita**, Shinpei Osaki, Nao Yoshihiro, Tokuei Kataoka: Effects of visual-motor illusions with different visual stimuli on the sit-to-stand of people with hemiplegia following stroke: A

randomized crossover controlled trial. Human movement science. 87:103021-103021.(2022)

- 2 3. 宮永陽亮、大村洋平、安在真帆、濱砂叶恵、**森下元賀**: 亜急性期脳卒中片麻痺患者のドライヤー動作獲得に向けて段階的な難易度調整を意識して介入した1症例. 臨床と理学療法. 9(2): 30-37.(2022)
- 2 4. **井上茂樹**、増川武利、五味田裕、PC12 変異細胞を用いた振動刺激の影響、吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要、23 号、37-40

作業療法学科

- 2 5. Tauchi Y, **Kyougoku M**, Takahashi K, Okita Y & Takebayashi T: Dimensionality and item-difficulty hierarchy of the Fugl-Meyer assessment of the upper extremity among Japanese patients who have experienced stroke, Topics in Stroke Rehabilitation, 29:8, 579-587, (2022)
- 2 6. 廣瀬卓哉, **寺岡睦**, **京極真**: 回復期の脳卒中上肢機能訓練における信念対立の質的解明. 作業療法 41, 315-324, (2022)
- 2 7. 野口卓也, **京極真**: ポジティブ作業評価における関与度推定システムを活用した作業療法実践の臨床有用性. 作業療法 41, 592-601, (2022)
- 2 8. 廣瀬卓哉, **寺岡睦**, **京極真**: 作業中心の Evidence-based practice におけるコンピテンシーの質的解明. 作業療法 41, 686-693, (2022)
- 2 9. 草野佑介, **寺岡睦**, **京極真**: 後天性脳損傷児の通常学級への適応プロセスに関する保護者の経験の質的解明ー複線径路等至性アプローチを用いてー. 作業療法 41(1)41-50, (2022)
- 3 0. **三宅優紀**, **岩田美幸**: 入院により園芸活動の機会を剥奪されたクライアントに対する作業療法士の実践過程の質的解明ー病院に勤務する作業療法士へのインタビュー分析. 作業療法おかやま 32 巻. (2022.)
- 3 1. 片岡紗弓、井上哲、櫛田真悟、**岩田美幸**: 写真とカメラが好き-自尊心の低下した自閉スペクトラム症児の大切にしている作業を通した支援. 作業療法おかやま 32 巻. (2022.)
- 3 2. 宮地司, **河村顕治**: 異なる関節角速度での筋出力特性と片脚ドロップジャンプ着地時における姿勢制御の関係性総合理学療法研究 3(1).6-14, (2022)
- 3 3. Takeshi Akimoto, **Kenji Kawamura**, Takaaki Wada, Naomichi Ishihara, Akane Yokota, Takehiko Sugino-shita, Shigeki Yokoyama Gait cycle time variability in patients with knee osteoarthritis and its possible associating factors. Journal of Physical Therapy Science 34: 2022 年 34 巻 2 号 p. 140-145, (2022)
DOI <https://doi.org/10.1589/jpts.34.140>

- 3 4. 福田航, 河村顕治, 横山茂樹, 片岡悠介, 五味徳之: 前十字靱帯再建術後の再損傷発生に関連する片脚スクワット中の運動学的因子の検討
Jpn J Rehabil Med Vol. 59 No. 7 725-731 (2022)
- 3 5. 大西邦博, 松居和寛, 秋本剛, 河村顕治: 3 軸加速度計による術後 2 週までの人工膝関節全置換術患者の体幹動揺性と運動機能の縦断調査, 臨床バイオメカニクス 43: 155-161, (2022)
- 3 6. Knox DK, Sabban E, Morinobu S: Examining mechanisms via which traumatic stress leads to posttraumatic stress disorder using animal models: Advantages, pitfalls, and future directions. Front Behav Neurosci 18:966147, (2022.)

② 雑誌投稿等

著者名、論文題名、誌名、巻数、号数、はじめのページーおわりのページ (出版年)

看護学科

1. 中瀬克己: 豪雨災害-平成 30 年西日本豪雨倉敷市真備町地区、公衆衛生, 87(3), 印刷中、(2023)

作業療法学科

2. 京極真: 層別解析と回帰分析, 交絡因子を含めた因果関係の証明. リハビリテーション医学, 59, 1106-1110, (2022)
3. 京極真: 研究論文の執筆前に理解しておくべきこと. 作業療法ジャーナル 56 (9), 970-974, (2022)
4. 京極真: 必須! パラグラフ・ライティング入門. 作業療法ジャーナル 56 (10), 1070-1074, (2022)
5. 京極真: 多職種連携における対話. 精神科治療学 37 (10), 1111-1115, (2022)
6. 京極真: 文献を活用するコツ. 作業療法ジャーナル 56 (11), 1170-1174, (2022)
7. 京極真: IMRaD と効率的な執筆順. 作業療法ジャーナル 56 (12), 1264-1268, (2022)
8. 京極真: 研究論文の「方法」を書くコツ. 作業療法ジャーナル 56 (13), 1356-1361, (2022)
9. 京極真: IMRaD を使った「結果」の書き方のコツ. 作業療法ジャーナル 57 (1), 64-68, (2023)
- 1 0. 京極真: IMRaD を使った「考察」の書き方のコツ. 作業療法ジャーナル 57 (2), 168-173, (2023)

③ 講演・口頭発表

発表者名、演題、発表学会等又は要旨集等名、はじめのページーおわりのページ (発表年、月)

看護学科

1. 竹崎和子・門倉康恵：中山間地域の病院に勤務する看護管理者の COVID-19 感染拡大渦での病棟管理の思い,日本看護研究学会第 48 回学術集会（WEB 開催）,（2022.8）
2. 竹崎和子・門倉康恵：A 看護系大学生の考える COVID-19 の感染拡大による看護管理者の役割,第 53 回日本看護学会学術集会,（現地開催）,（2022.11）
3. 福岡美和：母性看護学に関するディベートの学習効果について,第 63 回母性衛生学会学術集会（現地開催・WEB 開催）,（2022.9）
4. 福岡美和：母性看護学に関するディベートから見えてきた検討事項,第 42 回日本看護科学学会学術集会(WEB+現地開催),（2022.12）
5. Miwa Fukuoka：Concept Analysis of Adverse Childhood Experiences, I the 4th International Conference on Technological Competency as Caring in Nursing, and Health Scie,（現地開催・WEB 開催）（2022.12）
6. Miwa Fukuoka：Effects of Adversity in Childhood on Women's Health, EAFONS 2023 第 26 回東アジア看護学研究者フォーラム（東京開催）,（2023.3）
7. 中嶋貴子・山下亜矢子：精神看護学実習におけるリカバリー志向に関する学修成果～当事者参加型授業を導入して～,第42回日本看護科学学会学術集会(WEB+現地開催),（2022.12）
8. 門倉康恵：がん化学療法看護認定看護師の講義を受講した看護系大学生の認定看護師に対する印象,第36回 日本がん看護学会学術集会（現地開催+WEB開催）,（2022.2）
9. 門倉康恵：緩和ケア認定看護師が終末期がん患者を支える家族に対する関わりの方針,日本看護研究学会 中国・四国地方会 第35回学術集会（WEB開催）,（2022.3）
10. 門倉康恵：看護系大学生が認識する新型コロナウイルス感染症が自らのキャリア発達に与えた影響,日本看護科学学会第42回学術集会（WEB+現地開催）,（2022.12）
11. 赤澤真旗子：学校における生徒の自殺のポストベンションで求められる養護教諭による支援の検討,第15回全国看護管理・教育・地域ケアシステム学会（WEB開催）（2022.7）
12. Shigeko Takao, Sayaka Hujita, Miwa Hukuoka, Kazuko Sawada, Akemi Yokomizo：Role Recognition of Public Health Nurses regarding Disaster Nursing, World Association for Nursing Science, World Association for DisasterNursing,（2022.10）
13. 高尾茂子：保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標に関する「平時からの健康危機管理能力」未出小項目の提案—災害を中心に—,第11回日本公

衆衛生看護学会学術集会, (2022.12)

- 1 4. 高尾茂子: 地域 防災・減災学習, まちなかゼミナール, (2022.10)
- 1 5. 高尾茂子: 日常生活と健康ーコミュニケーション・スキルー, 出張講義: 高梁市立宇治高等学校, (2022.12)
- 1 6. 横溝珠実・長江弘子・中塚幹也: 保健師と助産師が捉える「気になる妊産婦」の様相, 日本地域看護学会第 25 回学術集会, (2022.8)
- 1 7. 横溝珠実・岩田歩子・江口珠美・田中映里・難波玲奈・小野裕香・木岡未奈美・中塚幹也: 大学生における妊孕性や生殖医療に関する知識や意識, 第 63 回日本母性衛生学会学術集会, (2022.9)
- 1 8. 横溝珠実・岩田歩子・江口珠美・田中映里・難波玲奈・小野裕香・中塚幹也: 医学的・社会的リスクを持つ妊産婦や子育て中の母親への保健師による支援-COVID-19 拡大での変化-, 第 63 回日本母性衛生学会学術集会, (2022.9)
- 1 9. 横溝珠実: COVID-19 禍で乳幼児の育児をする母親の近所とのつながりに対する思い, 第 11 回日本公衆衛生看護学会学術集会, (2022.12)
- 2 0. 飯田尚美・柘野浩子: オンラインシステムを活用した混合型成人慢性期看護学実習における評価と課題-学生のレポートと満足度の分析から-, 第 42 回日本看護科学学会学術集会 (WEB+現地開催), (2022.12)
- 2 1. 岡本さゆり・横溝珠実・竹崎和子: 老年看護学実習におけるアロマハンドマッサージ演習の試みと学生の学び-援助者の視点から-, 日本看護研究学会第 48 回学術集会 (WEB 開催) (2022.8)
- 2 2. 小出恵子・岡本玲子・岡田麻里・中瀬克己: PDCA サイクルの改善の実施に必要な公衆衛生看護技術, 第 81 回日本公衆衛生学会総会, (2022.10)
- 2 3. 古屋好美・中瀬克己: 「健康危機管理、危機事態対応で繰返される課題への対策ーコロナ禍に学ぶ現場への提言ー」、第 81 回日本公衆衛生学会総会, (2022.10)

理学療法学科

- 2 4. 高橋淳、最新の感染状況と今後の展望について、第 23 回～第 32 回新興感染症対策委員会 (高橋医師会)、(2022 年 4 月 7 日、5 月 12 日、6 月 23 日、7 月 20 日、8 月 25 日、9 月 29 日、10 月 27 日、11 月 24 日、12 月 22 日、2023 年 1 月 26 日)
- 2 5. 佐藤嘉展, 三宅優紀, 中嶋正明. 「健常女性における骨盤底を挙上させるための最適なトレーニングの検討」. 第 53 回中国四国リハビリテーション医学研究会. (2022 年 12 月)
- 2 6. 森下元賀, 西川弘太郎: 不安定な座位姿勢の保持と口腔の運動が咀嚼運動に及ぼす影響ー健常者における検討ー. 日本老年歯科医学会第 33 回学術大会(2022 年 6 月)

27. **森下元賀**, 高尾茂子, 横溝珠実: 地域在住高齢者における炭酸飲料の摂取習慣と嚥下機能との関連. 第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会(2022年9月)
28. **森下元賀**: 全身機能と口腔機能の関連性と多職種連携～理学療法士の立場から～. 岡山県委託事業 在宅歯科医療等に従事する歯科衛生士研修会(2023年1月)
29. **森下元賀**: 全身機能、活動と口腔機能の互いの関係性～医科歯科連携にむけて～. 第26回東京都大田区大森地域保健医療勉強会(2023年2月)
30. 守屋佑亮、高橋舞子、河相夕華、亀川禎央、亀川陸雄、増川武利、**井上茂樹**、人工膝関節全置換術を施行した高齢女性の膝伸展筋力向上群と低下群におけるJOAスコアの比較検討、第35回中国ブロック理学療法士学会(2022年9月)
31. 前野崇司、**井上茂樹**、**原田和宏**、入院関連機能障害を生じた心不全患者における回復期リハビリテーション病棟でのADL改善度とその関連因子、第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会(2022年6月)
32. **齋藤圭介**、学会長基調講演 Diversity and Integration ～理学療法の新たな可能性への挑戦～、第35回中国ブロック理学療法士学会(2022年9月)
33. 太田晴之、**齋藤圭介**、佐々木賢太郎、堅山佳美、濱田全紀、鉄永倫子、西田圭一郎、千田益生、慢性疼痛外来における集学的治療6ヵ月継続患者の特徴に関する報告と検討、第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会(2022年11月)
34. 梅木一平、**齋藤圭介**、大塚紗英、川上孝行、認知症高齢者における排泄動作プロセスの類型化と各集団の特徴に関する検討、第35回中国ブロック理学療法士学会(2022年9月)

作業療法学科

35. 中谷知生, 森井麻貴, 比嘉敬康, 蓮井成仁, 水田直道, 佐藤光, **京極真**, 伊藤和寛, 堀寛史, 松下光範. 脳卒中片麻痺患者の長下肢装具を用いた介助歩行の距離決定に影響を及ぼす因子の検証, 第20回神経理学療法学会抄録集, No.O-121, (2022.)
36. 太田晴之, 齋藤圭介, 原田和宏, **京極真**, 鉄永倫子, 西田圭一郎, 千田益生, 慢性疼痛患者を対象とした集学的治療における活動能力の継時的推移の類型化に関する検討, 運動器理学療法学, (2022), 2 巻, Supplement 号, p. O-28
37. **京極真**: 信念対立解明アプローチから学ぶ、これからの作業療法のあり方. 第42回近畿作業療法学会(特別講演), (2022)
38. **京極真**: 多職種連携における信念対立解明アプローチ. 獣医コミュニケーション(基調講演), (2022)
39. **京極真**: 理学療法のための質的研究入門. 第38回東海北陸理学療法学会(教

育セミナー), (2022)

- 4 0. 京極真: 作業療法士のための ICT を活用した情報発信～これからの時代への展望. 第 12 回栃木県作業療法学会 (特別講演), (2022)
- 4 1. 久世慎太郎、寺岡睦、京極真: 作業療法士の視点から見た多職種連携における良い共通目標に関する質的検討. 第 56 回日本作業療法学会, (2022)
- 4 2. 丸池駿介、寺岡睦、京極真: 「脳卒中作業機能障害スクリーニングツール: Stroke Occupational Dysfunction Screening Tool: SODST」の試作版の作成. 第 56 回日本作業療法学会, (2022)
- 4 3. 安井茜、寺岡睦、京極真: 作業療法士が体験する信念対立のエスカレーションの質的解明. 第 56 回日本作業療法学会, (2022)
- 4 4. 吉本裕介、寺岡睦、京極真: 高次脳機能障害を有する当事者家族の作業機能障害の実態の質的解明. 第 56 回日本作業療法学会, (2022)
- 4 5. 廣瀬卓哉、丸山祥、寺岡睦、京極真: 作業療法における Evidence-based practice の概念分析. 第 56 回日本作業療法学会, (2022)
- 4 6. 草野佑介、寺岡睦、京極真: 後天性脳損傷児の通常学級への適応プロセスに関する保護者の経験の質的解明－複線径路等至性アプローチを用いて－. 第 56 回日本作業療法学会, (2022)
- 4 7. 樋尾佑介、狩長弘親. 訪問看護利用者に対する生活行為向上マネジメントを活用した作業療法の介入効果, 第 56 回日本作業療法学会抄録集, OM-1-4, (2022.)
- 4 8. 村下佳、狩長弘親. 社会的行動障害を有する高次脳機能障害者と共に暮らす家族障害認識の変化, 第 56 回日本作業療法学会抄録集, ON-8-2, (2022.)
- 4 9. 松本梢, 先納照典, 岩田美幸, 藪脇健司. 利用者に内在する通所リハビリテーション終了に繋がらない意味の解明～SCAT を用いた質的研究～. 第 16 回日本作業療法研究学会学術大会, (2022)
- 5 0. 森口智恵美、岩田美幸、上田裕久、徳島県の障がい者就労支援施設における作業療法士との連携に関する実態調査. 第 31 回四国作業療法学会 (高知県), (2022.)
- 5 1. 片岡紗弓, 井上哲, 櫛田慎吾, 岩田美幸. 「写真とカメラが好き」-自尊心の低下した自閉スペクトラム症児の大切にしている作業を通じた支援. 第 34 回岡山県作業療法学会, (2022.)
- 5 2. 三宅優紀, 高橋智史, 岩田美幸. 農園芸の機会を剥奪された患者に対する作業療法士の実践の質的解明. 第 56 回日本作業療法学会抄録集, PJ-5-55. (2022.)
- 5 3. 川上翔平, 河村顕治. 高位脛骨骨切り術前後における静止立位の運動学パラメータの検討 - knee-spine syndrome に着目して - 第 33 回日本運動器科学会 (2022 年 7 月 9 日 (土) ～10 日 (日))
- 5 4. 秋本剛, 河村顕治, 和田孝明, 石原直道, 横田あかね, 杉之下武彦, 大西邦博, 横山

茂樹変形性膝関節症患者における歩行周期時間変動と膝関節機能の関連－異なる3種類の歩行速度による検討－第49回日本臨床バイオメカニクス学会（2022年11月4日（金））

55. 大西邦博, 松居和寛, 石田徳磨, 河村顕治 人工関節膝関節全置換術患者の杖歩行自立日数は術前の歩行変動性、心理社会的要因、運動機能のどれに関与するのか？ 第49回日本臨床バイオメカニクス学会（2022年11月5日）
56. 河村顕治 経頭蓋直流電気刺激と末梢神経機能的電気刺激による皮質脊髄路促進効果 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会（2022年11月6日）
57. 渋谷玲二、寺岡睦：脳卒中後の仕事復帰を目指すために、OBP2.0を基盤としたMTDLPを活用したことにより多職種連携が促進された実践報告．第56回日本作業療法学会，（2022）
58. 寺岡睦：作業に根ざした実践2.0（OBP2.0）入門．第32回東北作業療法学会セミナー（研修会講師），（2022）
59. 寺岡睦：論文執筆のキホン（初学者セミナー）～事例報告編～．岡山県作業療法士会学術部研修会（講師），（2022）
60. 寺岡睦：OBP2.0実践のススメ．神奈川県作業療法士会スキルアップ研修事業（研修会講師），（2022）
61. 寺岡睦：研究デザインの決め方と文献検索の方法．鹿児島県作業療法士学術部研修会（講師），（2022）
62. 小林弘典、淵上学、宮城達博、大賀健市、森信繁：適切な養育機会の欠損を経て発症するうつ病の腹側淡蒼球の神経活動異常とその予防法の研究．第52回日本神経精神薬理学会，（2022）
63. 大賀健市、淵上学、宮城達博、小林弘典、森信繁：ヒストン・メチル化酵素 G9a 阻害薬の BIX1294 は PTSD モデルラットの恐怖記憶の消去障害を改善する．第52回日本神経精神薬理学会，（2022）
64. 森信繁：抗うつ薬の薬理特性からみたうつ病の薬物療法について～Vortioxetine をめぐって～．第44回日本心身医学会中国・四国地方会．（2022.）（教育講演）

④ 著書・作品等

著者名、書名、版表示、出版社（出版年）

作者名、作品名、作品発表場所等（発表年、月）

看護学科

1. 高尾茂子,室崎益輝,神原咲子,中瀬克己,藤田さやか,福岡美和,澤田和子,横溝珠実：
市民向け防災・減災ガイドブック「防災・減災の視点から公衆衛生を考えるガイドブ

ック, (2022.3)

2. 横溝珠実・芳我ちより：笠岡市介護予防事業評価報告書(2022) 高齢者の健康状態を表す指標としての基本チェックリストの有効性の検討－笠岡市受託研究事業

理学療法学科

3. 金谷さとみ, 原田和宏(編)、原田和宏、他(執筆)、標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 第5版、医学書院(2022年)
4. 細田多穂(監修)、森下元賀、他(執筆)：「口腔・嚥下機能低下」地域リハビリテーション学テキスト改訂第4版、南江堂(2023年)
5. 日高正巳(学術編集)、有馬慶美・加藤研太郎(教育編集)、佐藤三矢、他(執筆)、理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 地域理学療法学、文光堂(2022年)

作業療法学科

6. 藤本一博, 小川真寛, 京極真(編)：5つの臨床推論で整理して学ぶ 作業療法リーズニングの教科書。メジカルビュー社, (2022)
7. 藤本一博, 小川真寛, 京極真(編)：5つの臨床推論で整理して学ぶ 作業療法リーズニングの教科書。寺岡睦：OBP2.0(超メタ理論), 181-190, メジカルビュー社, (2022)

⑤ その他の研究業績

看護学科

1. 高尾茂子：保健師養成機関における地域防災対策推進のために教育ガイドラインの作成,日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C),2019-2023年度(研究代表者)
2. 市村美香, 佐々木新介, 荻野哲也：透析後の止血トレーニング装置の開発－安全で確実な止血技術の早期習得を目指した試み,日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C),2020-2023年度(研究代表者)
3. 佐々木新介, 山下哲平, 市村美香, 荻野哲也：微振動を用いた新しい末梢静脈拡張技術の開発と評価, 日本学術振興会：科学研究費助成事業 基盤研究(C), 2022-2026年度(研究分担者)
4. 横溝珠実, 中塚幹也, 長江弘子：気になる妊産婦の捉え方と虐待予防連携－ハイブリッドモデルを用いた概念分析－,日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C),2020-2023年度(研究代表者)

作業療法学科

5. 寺岡睦：第34回岡山県作業療法学会演題発表③－1座長, (2022)

令和4年度 心理学部 研究活動実績報告

① 学術論文 著者名、論文題目、誌名、巻数、号数、はじめのページ-おわりのページ（出版年）
1. <u>土居正人</u>・川内三奈美, ネガティブ感情尺度と自傷行為尺度の年間の得点推移 吉備国際大学心理・発達総合研究センター紀要, 8, 1-10. (2022) 2. 松岡莉穂・<u>土居正人</u>, HSP が自傷傾向に及ぼす影響：母親不承認下における推論の誤りの詳細の検討 吉備国際大学心理・発達総合研究センター紀要, 8, 11-18. (2022) 3. <u>藤原直子</u>・白井涼・砂田創太郎 少年院における保護者支援の実践：ペアレント・トレーニングの要素を取り入れた講習会の試み. 矯正教育研究, 67, 117-124. (2022) 4. <u>藤原直子</u>・大野颯斗・日下部あゆみ 「強み介入」を用いたストレスマネジメント教育が中学生のストレス低減に及ぼす効果. 吉備国際大学研究紀要（人文・社会科学系）, 32, 95-102. (2022) 5. <u>橋本翠</u> 近年における生理学的指標を用いた Snorezen 研究の概観. スノーズレン教育・福祉研究, 5, 63-67. (2022) 6. <u>川上はる江</u> 言語活動を生かした道徳の授業の在り方. 吉備国際大学研究紀要, 32, 103-113. (2022) 7. <u>川上はる江</u> 価値理解の変容が表れる道徳科の指導法. 吉備国際大学心理・発達総合研究センター紀要, 8, 19-27. (2022) 8. 寺田和永・漆谷まどか・<u>津川秀夫</u> 感謝エピソードの筆記と反すうを用いたポジティブ心理学的介入がウェルビーイングに及ぼす影響：4 週間プログラムの実施を通して. 広島文教大学心理学研究, 3(2), 35-47. (2022) 9. <u>津川秀夫</u> 岩本論文へのコメント：解決のイメージをふくらませよう. 神戸松蔭こころのケア・センター臨床心理学研究, 17, 22-24. (2022)
② 雑誌投稿等 著者名、論文題目、誌名、巻数、号数、はじめのページ-おわりのページ（出版年）
1. <u>藤井和郎</u> 心の成長がいじめ予防につながる. 学校教育相談の理論・実践事例集 いじめの解明, 第一法規. (2022) 2. <u>藤井和郎</u> いじめた側もいじめられた側も成長する取組. 学校教育相談の理論・実践事例集 いじめの解明, 第一法規. (2022) 3. <u>藤井和郎</u> 子どもたちへの肯定的なまなざしをもったチーム支援. 学校教育相談の理論・実践事例集 いじめの解明, 第一法規. (2022) 4. <u>藤井和郎</u> いじめられた子の保護者支援は子ども支援につながる. 学校教育相談の理論・実践事例集 いじめの解明, 第一法規. (2022) 5. <u>藤井和郎</u> 「いじり」ととらえ生徒のつらさに気づかない. 学校教育相談の理論・実践事例集 いじめの解明, 第一法規. (2022)

6. 松浦真澄・長谷川明弘・<u>津川秀夫</u>・黒沢幸子 学びたいアプローチ：第5回会員動向調査（web調査）（2021）. ブリーフサイコセラピー研究, 31(1), 19-25. (第3著者) 7. <u>三宅俊治</u> 大学教育の中等教育化を憂う：高等－中等教育のギャップ、大学生の学力低下を踏まえた対応案の提示. 国際教育研究フォーラム 95, 2-7. 国際教育研究所. (2022)
③ 講演・口頭発表 発表者名、演題、発表学会等又は要旨集等名、はじめのページ-おわりのページ (発表年. 月)
(1)学会発表 1. 田中未来・<u>土居正人</u>, 集団におけるネコイヌパーソナリティタイプの相性：集団内の構成と役割を通して, 第70回岡山心理学会大会発表, 就実大学・就実短期大学. (2022. 11) 2. 波平乃衣・<u>土居正人</u>, 筆跡分析における心理学的検討：筆跡と性格の関連, 第70回岡山心理学会大会発表, 就実大学・就実短期大学. (2022. 1) 3. 後藤泰斗・<u>土居正人</u>, 一日一善が及ぼす心理的効果の検討：自傷傾向及びネガティブ感情の軽減に向けて, 第70回岡山心理学会大会発表, 就実大学・就実短期大学. (2022. 11) 4. 小倉翔太・<u>土居正人</u>, 自傷傾向者の親が子に望む社会的価値観（良い子）とは：日本・韓国の学生の比較から, 第70回岡山心理学会大会発表, 就実大学・就実短期大学. (2022. 11) 5. 石田伸太郎・東森健司・遠藤純花・<u>土居正人</u>, 自分の行動理解体験の促進：自身のタイピングスキルに対する行動分析的介入を経て, 第70回岡山心理学会大会発表, 就実大学・就実短期大学. (2022. 11) 6. <u>藤原直子</u>・日下部あゆみ 児童養護施設におけるアートセラピー体験の実践：児童の自己効力感に及ぼす影響. 日本子ども学会学術集会第18回子ども会議, 東海学院大学. (2022. 10) 7. 大野颯斗・<u>藤原直子</u>・中角祐治・中嶋貴子 中学生を対象とした心理教育がストレス及び喫煙への認識に与える影響：大学院生によるオンライン授業の実践. 第16回日本禁煙学会 学術総会, 関西医科大学, WEB開催. (2022. 10) 8. 坂本蓮・<u>橋本翠</u> 他者存在の違いが責任の強さによる結果処理に影響を与えるのか？[ポスター発表]. 第40回日本生理心理学会大会・日本感情心理学会第30回大会合同大会(関西学院大学. (2022. 5) 9. 金澤寛・<u>橋本翠</u> 木目模様と嗜好に関連する心理的要因について－事象関連電位を用いた検討 その1 研究計画－. 日本建築学会大会, 北海道大学. (2022. 9) 10. <u>橋本翠</u>・<u>村上勝典</u>・坂本蓮・小川優太・<u>森井康幸</u> 大学生を対象とした1泊2日の模擬避難所合宿訓練. 日本災害情報学会第25回大会, 日本大学. (2022. 10)

- 1 1. 長野 祐太・Herlina Suningsih・森井康幸 大学生における課題先延ばし行動とセルフコントロールとの関連 ―吉備国際大学のインドネシア留学生と日本人学生との比較―. 第 70 回岡山心理学会大会, 就実大学・就実短期大学. (2022. 11)
- 1 2. 寺田和永・津川秀夫・松本一郎 A 中学校における Good Behavior カードの実践に関する研究: スクール・コネクテッドネスと学校ストレス反応の観点から. 日本学校心理学会第 24 回オンライン大会. (2022. 8)
- 1 3. 花谷遥・寺田和永・津川秀夫 感謝エピソードの筆記や共有を用いた授業づくり: ポジティブ感情に及ぼす効果. 日本学校心理学会第 24 回オンライン大会. (2022. 8)
- 1 4. 寺田和永・津川秀夫 利他行動の予期がポジティブ・ネガティブ感情に及ぼす影響. 日本心理学会第 86 回大会, 日本大学文理学部+WEB. (2022. 9)
- 1 5. 能仁 結衣・村上 勝典・宇都宮真輝 SNS 利用動機尺度作成の試み. 第 70 回岡山心理学会大会, 就実大学・就実短期大学. (2022. 11)
- 1 6. 牟礼英生・若森孝彰・高須賀功喜・新免利郎・樽井慎・山下昌彦・田辺美紀子・篠山英道・重松秀明・高尾聡一郎 パーキンソン病に対する sense/adaptive DBS 9 例の使用経験. 第 61 回日本定位・機能神経外科学会, 大阪+WEB. (2022. 1)
- 1 7. 若森孝彰・牟礼英生・田辺美紀子・山下昌彦・高須賀功喜・新免利郎・樽井慎・上利崇 パーキンソン病における幻視と手術後せん妄との関連. 第 61 回日本定位・機能神経外科学会, 大阪+WEB. (2022. 1)
- 1 8. 高須賀功喜・牟礼英生・樽井慎・若森孝彰・新免利郎・田辺美紀子・山下昌彦・上利崇 脊髄刺激療法における低頻度トニック刺激・高頻度トニック刺激・バースト DR 刺激のトライアルおよび短中期治療効果. 第 61 回日本定位・機能神経外科学会. 大阪+WEB, (2022. 1-2)
- 1 9. 新免利郎・牟礼英生・若森孝彰・高須賀功喜・山下昌彦・山崎諒・野村千尋・田辺美紀子・津田陽一郎・上利崇 脊髄刺激療法における刺激方法の違いが難治性疼痛を伴うパーキンソン病患者の疼痛と歩行機能に与える影響. 第 61 回日本定位・機能神経外科学会, 大阪+WEB. (2022. 1-2)
- 2 0. 牟礼英生・若森孝彰・新免利郎・野村千尋・山下昌彦・田辺美紀子・篠山英道・重松秀明・高尾聡一郎・上利崇 Disease modeling の影響が示唆された局所性ジストニア 3 例の治療経験. 第 61 回日本定位・機能神経外科学会, 大阪+WEB. (2022. 1-2)
- 2 1. 若森孝彰・牟礼英生 パーキンソン病の幻視と脳深部刺激療法後せん妄との関連 ―ノイズパレイドリアテストによる幻視評価―. 第 16 回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 東京. (2022. 7)

(2)講演等

1. 土居正人 吉備国際大学公開講座 令和 4 年度 (前期) まちなかゼミナール「話を聞くとは？」(オンデマンド配信). (2022. 7)

2. 藤井和郎 事例検討，教育相談担当者研修会，岡山県総合教育センター．(2022.1)
3. 藤井和郎 学校適応支援「マルチレベルアプローチ」の理論．中央中学校校内研修会，美咲町立中央中学校．(2022. 4)
4. 藤井和郎 いじめの早期発見．竜操中学校校内研修会，岡山市立竜操中学校．(2022. 4)
5. 藤井和郎 教育相談の工夫～子どもの感情のコントロールの仕方に焦点を当てて～．教育相談研修講座，岡山市教育研究研修センター．(2022. 7)
6. 藤井和郎 アセス・だれもが行きたくなる学校づくりの概要．総社西中学校校内研修会，総社市立総社西中学校．(2022. 8)
7. 藤井和郎 アセスの見方と活用の仕方について．金浦中学校校内研修会，笠岡市立金浦中学校．(2022. 9)
8. 藤井和郎 学校環境適応感尺度(ASSESS)の見方と活用．心理検査活用リーダー研修講座，岡山県教育委員会．(2022. 9)
9. 藤原直子 応用行動分析を用いた行動の理解と対応．浪速少年院，職員研修会．(2022. 7)
10. 藤原直子 青少年期の心をどう理解するか：「行動のしくみ」からこれからを考える．中津少年学院，新入時保護者講習会．(2022. 8, 10, 12)
11. 藤原直子 青少年期の心をどう理解するか：「行動のしくみ」からこれからを考える．岡山少年院，保護者講習会．(2022. 9)
12. 藤原直子 応用行動分析を用いた行動の理解と対応．加古川学園・播磨学園，合同職員研修会．(2022.11)
13. 藤原直子 応用行動分析を用いた行動の理解と対応．愛知少年院，職員研修会．(2022. 11)
14. 藤原直子 応用行動分析を用いた行動の理解と対応．貴船原少女苑，職員研修会．(2022. 12)
15. 藤原直子 応用行動分析を用いた行動の理解と対応．青葉女子学園，職員研修会．(2022. 12)
16. 藤原直子 応用行動分析を用いた行動の理解と対応．岡山少年院，職員研修会．(2022. 12)
17. 津川秀夫 エリクソニアン・アプローチ入門．日本ブリーフサイコセラピー学会第32回東京オンライン大会ワークショップ（オンライン開催）．(2022. 6)
18. 川上はる江 SST 授業の実施：高梁市立宇治高等学校校内研修会，高梁市立宇治高等学校．(2022. 1)
19. 川上はる江 公開授業参観と研究協議における指導助言：総社市立総社西中学校校内研修会，総社市立総社西中学校．(2022. 7)
20. 川上はる江 道徳の授業と評価：総社市立総社中学校校内研修会，総社市立総社中学校．(2022. 8)

2 1. <u>川上はる江</u> 読み物教材の読み方：総社市立総社中学校校内研修会，総社市立総社中学校．（2022. 10） 2 2. <u>津川秀夫</u> 学校カウンセリング．倉敷市教育センター，倉敷教育センター，ライフパーク倉敷．（2022. 7） 2 3. <u>津川秀夫</u> スクール・コネクテッドネスの考え方を生かした不登校の未然防止とポジティブな学級経営．倉敷市立西中学校．（2022. 8） 2 4. <u>津川秀夫</u> エリクソニアン・アプローチ入門．ブリーフ・セラピー研究会（オンライン開催）．（2022. 9） 2 5. <u>津川秀夫</u> 不登校の理解と対応．倉敷教育センター初任者研修，ライフパーク倉敷．（2022.9） 2 6. <u>津川秀夫</u> エリクソニアン・アプローチ入門．茨城県公認心理師協会（オンライン開催）．（2022. 9） 2 7. <u>津川秀夫</u> 不登校傾向生徒への養護教諭のかかわり方．岡山県中学校教育研究会倉敷支部養護部会，倉敷市郷内公民館．（2022. 9） 2 8. <u>津川秀夫</u> 管理職のためのメンタルヘルス研修．倉敷市総務部人事課職員研修所，倉敷市庁舎．（2022. 11） 2 9. <u>津川秀夫</u> エリクソニアン・アプローチ入門．茨城県公認心理師協会（オンライン開催）．（2022. 12） 3 0. <u>宇都宮真輝</u> 吉備国際大学公開講座令和4年度（後期）まちなかゼミナール「心理学で考える幸せの見つけ方」（オンデマンド配信）．（2023. 1）
④ 著書・作品等 著者名、書名、版表示、出版社（出版年） 作者名、作品名、作品発表場所等（発表年、月）
1. <u>津川秀夫</u> 臨床力アップに向けて．日本ブリーフサイコセラピー学会編，臨床力アップのコツ：ブリーフセラピーの発想，遠見書房，11-17．（2022. 5）
⑤ その他の研究業績
1. <u>橋本翠</u> スヌーズレン(Snoezelen)の有効性についての心理生理学的研究．日本学術振興会 科学研究費助成事業 実績報告書．（2022. 3） 2. <u>橋本翠</u>，<u>森井康幸</u>，金澤寛，小西賢三 避難行動促進におけるメカニズムの解明-生理心理学的アプローチを用いて-．令和3年度 公益財団法人ウエスコ学術振興財団 研究成果報告書，102．（2022. 3）

令和4年度 農学部 研究活動実績報告

① 学術論文

著者名、論文題目、誌名、巻数、号数、はじめのページ-おわりのページ（出版年）

地域創成農学科

1. Kusnandar AS, Itoh JI, Sato Y, Honda E, **Hibara KI**, Kyojuka J and Naramoto S., NARROW AND DWARF LEAF 1, the Orthologue of Arabidopsis ENHANCER OF SHOOT REGENERATION1/DORNROSCHE, Mediates Leaf Development and Maintenance of the Shoot Apical Meristem in Oryza sativa L., *Plant Cell Physiology*, 63(2):265-278. 2022 年 2 月 doi: 10.1093/pcp/pcab169.
2. Yoshikawa T, Hisano H, **Hibara KI**, Nie J, Tanaka Y, Itoh JI and Taketa S., A bifurcated palea mutant infers functional differentiation of WOX3 genes in flower and leaf morphogenesis of barley, *AoB Plants* 5;14(3):plac019. 2022 年 5 月 doi: 10.1093/aobpla/plac019.
3. 竹生敏幸、李玩蓉、**許冲**、**谷坂隆俊**、土壤微生物叢活性剤の葉菜類の成長に及ぼす効果、作物研究、67：17－25（2022）.
4. 竹生敏幸、**許冲**、**谷坂隆俊**、土壤微生物叢活性剤の利用による野菜リゾクトニア病の予防、作物研究、67：27－34（2022）
5. 池永幸子、**氷見英子**、伊藤裕之、谷口義則、大谷隆二、津波浸水被害地域のコムギ作圃場における越冬前追肥の有効性、日本作物学会紀事、91 巻、4 号、346—355（2022）
6. **Eiko Himi**, Takakazu Matsuura, Hideho Miura, Naoya Yoshihara, Masahiko Maekawa, A new method for detecting proanthocyanidin content in wheat reveals the relationship between R-1 gene to grain color deepness, *Cereal Chemistry*, *in press*, doi.org/10.1002/cche.10629
7. **平井順**、行政職員の出向慣行に関する探索的研究—全国自治体調査の首長回答項目の分析、軍用地コンバージョンの国際比較科研報告書、第2輯、146-154（2023）
8. Masuda, M., Natsuhara, K., **Sueyoshi, S.**, Odani, S., Yagyu, F., Tadokoro, K., Ohnishi, M., Nakao, R., Goto, C., and Umezaki, M. (2022) Association between the dietary inflammatory index and disability in Japanese older people. *Public Health Nutrition*. 25(11), 3137–3145. doi:10.1017/S1368980022001604.

醸造学科

1. Kikuchi, T., T. Araki, **K. K.Hashimoto**, Y. Ebihara, T. Tanaka, Y. Nishimura, G. Vichare, A. K. Sinha, J. Chum, K. Hosokawa, I. Tomizawa, Y. Tanaka, A. Kadokura (2022), Instantaneous achievement of the Hall and Pedersen-Cowling current circuits in northern and southern hemispheres during the geomagnetic sudden commencement on 12 May 2021, *Front. Astron. Space Sci.* 9:879314. doi: 10.3389/fspas.2022.879314. <https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fspas.2022.879314/full>

2. Kikuchi, T.; Hashimoto, K.K. ; Tanaka, T.; Nishimura, Y.; Nagatsuma (2022), T. Middle Latitude Geomagnetic Disturbances Caused by Hall and Pedersen Current Circuits Driven by Prompt Penetration Electric Fields. Atmosphere 2022, 13, 580. https://doi.org/10.3390/atmos13040580 (INVITED)
② 雑誌投稿等 著者名、論文題目、誌名、巻数、号数、はじめのページ-おわりのページ（出版年）
③ 講演・口頭発表 発表者名、演題、発表学会等又は要旨集等名、はじめのページ-おわりのページ（発表年、月）
地域創成農学科 1. 桧原健一郎 、イネ胚サイズを規定する 2 つの転写因子、遺伝研研究集会「イネ発生研究のルネサンス」2022 年 11 月 25 日 2. 氷見英子 、栗原志保、安倍史高、高橋秀和、田中啓介、松浦恭和、前川雅彦、力石和英、コムギ種子休眠に関わる lipid-transfer protein 遺伝子について、第 141 回日本育種学会講演会、オンライン開催 2022 年 3 月 20-21 日 3. 中嶋智子、丸山隼人、 氷見英子 、山本洋子、佐々木孝行、コムギの根端における TaALMT1 輸送体タンパク質の安定的発現機構の解析、日本土壌肥料学会、東京農業大学 2022 年 9 月 13-15 日 4. 佐藤敦信・ 濱島敦博 、林産物輸出における高付加価値化戦略とその課題ー木材加工企業による和室関連製品の輸出を事例に、日本国際地域開発学会秋季大会 2022 年 11 月 12 日 5. 中村哲也、 濱島敦博 、バンコクにおける日本食品の購入志向に関する統計的分析、地域農林経済学会大会 2022 年 10 月 23 日 6. 中村哲也・丸山敦史・増田聡、 濱島敦博 、ALPS 処理水海洋放流に伴うタイ向け福島・宮城県沖水産物の購入意向への影響ーバンコク市内における Web 調査からの接近、日本国際地域開発学会春季大会 2022 年 6 月 4 日 7. 津野翔、 村上二郎 、 相野公孝 、養液栽培におけるミョウガ花蕾腐敗症状から分離された <i>Pseudomonas</i> 属細菌について、日本植物病理学会関西西部会 2022 年 9 月 21-22 日 醸造学科 1. 竹内愛幸、 金沢功 、 福田恵温 、糖転移酵素によるレスベラトロール配糖化条件の検討、第 25 回化学工学会学生発表会（オンライン開催）2023 年 3 月 4 日 2. 片岡鮎美、 金沢功 、 福田恵温 、ローヤルゼリーに含まれる抗炎症成分アデノシン-N1-オキシド合成法の検討、第 25 回化学工学会学生発表会（オンライン開催）、2023 年 3 月 4 日 3. 田爪慎之介、 井上守正 、麴仕掛品の水分含量並びに酵素活性の推移、上田流麴造り研究会通常総会 2022 年 10 月

4. 小山拓馬, 渡部太緒, <u>村上二郎</u>, 永野惇, 吉川貴徳、イネの生育相転換に伴ういもち病感染応答性の変化、日本育種学会（第 143 回講演会）（2023 年 3 月 17-18 日） 5. 津野翔, <u>村上二郎</u>, <u>相野公孝</u>、養液栽培におけるミョウガ花蕾腐敗症状から分離された <i>Pseudomonas</i> 属細菌について、日本植物病理学会関西支部会（2022 年 9 月 21-22 日） 6. <u>村上二郎</u>、吉備国際大学農学部 2 学科が携わる研究・教育関連活動（食の安全性を考える…天然の香り成分を用いたポストハーベスト病害の防除について）、国際フロンティア産業メッセ 2022（2022 年 9 月 1-2 日） 7. <u>林将也</u>、微生物酵素をヒトの生活・健康・予防医学に役立てる～放線菌由来メチオニンデカルボキシラーゼ～、愛媛大学大学院農学研究科 生命機能科学応用開発研究グループ(ARG) 第 7 回講演会（2022.08.19） 8. <u>井上守正</u>、GI はりま酒審査、2022 年 4 月、9 月 9. <u>井上守正</u>、北淡路のテロワール開発、北淡路ワイン研究会、2022 年 12 月 10. <u>井上守正</u>、大阪国税局清酒品質評価会、大阪国税局（2022 年 9 月、10 月）
④ 著書・作品等 著者名、書名、版表示、出版社（出版年）・作者名、作品名、作品発表場所等（発表年、月）
⑤ その他の研究業績
地域創成農学科 1. 香川弘征, 桑川翔哉, 横山由紀子, 喜田衣久美, <u>氷見英子</u>、(+)-カテキンを基質としたコムギ種子中の酸化酵素活性、吉備国際大学研究紀要、32、9-19 (2022) 2. 濱源太・<u>森野真理</u>、プラごみに対する大学生の意識および行動変容の要因分析、吉備国際大学研究紀要 33（印刷中）（2023）
醸造学科 1. <u>福田恵温</u>、タデ藍の生理機能、吉備国際大学研究紀要、32、1-8（2022） 2. 片岡鮎美、竹内愛幸、中杉爽志、<u>金沢功</u>、<u>福田恵温</u>、アデノシン N1-オキシドの簡易合成法、及びレスベラトロール配糖体調製法の検討、吉備国際大学研究紀要、33、（2023） 3. <u>眞山滋志</u>、<u>村上二郎</u>、眞山眞理 地域名産の花・果実に生息する有用酵母の探索、吉備国際大学研究紀要 第 32 号、29-35 (2022) 4. <u>眞山滋志</u>、<u>村上二郎</u>、眞山眞理、<u>濱島淳博</u>、<u>井上守正</u>、<u>金沢功</u>、渡辺秀造、戸川秀昭、岡山特産冬ぶどう「紫苑」から分離された酵母 <i>S.cerevisiae</i> を用いた大学ブランドワインの開発、吉備国際大学研究紀要 第 32 号、37-42 (2022) 5. <u>井上守正</u>、ウイスキー、スピリッツ、リキュール免許取得、寿酒造（2022 年 11 月） 6. 因來理紗、<u>井上守正</u>、イザナギ神宮酵母取得、伊弉諾神宮、千年一酒造（2022 年 9 月）

7. (査読審査) 林将也、研究費獲得プログラム「academist Prize (第2期)」審査員(審査・評価・学術的助言)、academist 運営事務局 主催 (2022.10.03-2022.10.06)

令和4年度 外国語学部 研究活動実績報告

① 学術論文 著者名、論文題名、誌名、巻数、号数、はじめのページーおわりのページ（出版年）
1. <u>John Fawsitt</u>、「Ambler and Greene, Literature and Entertainments」、『吉備国際大学研究紀要（人文・社会科学系）』第32号、pp1-11（2022年） 2. <u>池上真由美</u>、「小中学校における英語絵本の読み聞かせの方法とその効果について」、『吉備国際大学研究紀要（人文・社会科学系）』第33号、pp1-12、（2023年） 3. <u>金沢真弓</u>、大学カリキュラムにおける 'World Englishes' 教育導入の意義ー日本人大学生の受容態度と意識の変化ー、『グローバルデザイン論攷』第6巻 No. 1、pp5-13、（2022年） 4. <u>佐藤匡</u>、「パソコン要約筆記の全体投影における表出画面の読みやすさ」の研究、一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会『難聴者の明日』、198号、p1（約1,500文字）、（2022年） 5. <u>高木秀明</u>、「油彩画中の乾性油の性質とその分析研究の動向」、『オレオサイエンス』、第22巻、第8号、397-402（2022年） 6. <u>畝伊智朗</u>、「紛争影響地域における農道整備のインパクトに関する考察ーコンゴ民主共和国の事例からー」、『グローバルデザイン論攷』第6巻第1号、pp31-55、（2022年）
② 雑誌投稿等 著者名、論文題名、誌名、巻数、号数、はじめのページーおわりのページ（出版年）
③ 講演・口頭発表 発表者名、演題、発表学会等又は要旨集等名、はじめのページーおわりのページ（発表年、月） 1. <u>池上真由美</u>「小学校における授業づくり」旭小学校英語研修会 指導助言及び講演 2022年9月 2. <u>池上真由美</u>「魅力ある義務教育学校に向けて」旭小中学校区研修会 指導助言及び講演 2022年10月 3. <u>畝伊智朗</u> 基調講演「つながりあう世界」、2022年4月30日、国連NGO・WFPW創設30周年記念・岡山主催イベント「新たな世界を生む共感のネットワーク」於）岡山西ふれあいセンター 4. <u>畝伊智朗</u> パネリスト講演「国際協力実務からの教訓」、2022年11月5日、講座「女性フォーラム・国際協力シンポジウム ～和解と平和のための教育の役割～」

④ 著書・作品等 著者名、書名、版表示、出版社（出版年） 作者名、作品名、作品発表場所等（発表年、月）
⑤ その他の研究業績 1. <u>池上真由美</u>、美咲町教育委員会より英語アドバイザーの委嘱を受け、英語特区の旭小学校・旭中学校のカリキュラム作成について指導助言を行った。 2. <u>大下浩司</u>、大原美術館所蔵作品の非破壊科学調査、2022 年 12 月

令和4年度 アニメーション文化学部 研究活動実績報告

① 学術論文 著者名、論文題名、誌名、巻数、号数、はじめのページーおわりのページ（出版年）
1. <u>平見勇雄</u>、英文法の説明に対する新しいアプローチ（2） 吉備国際大学研究紀要（人文・社会科学）第33号 2023年3月発行予定 2. <u>大谷卓史</u>・大澤博隆・壁谷彰慶・川口嘉奈子・川口由起子・神崎宣次・久木田水生・杉本俊介，良い倫理的意思決定のための倫理綱領——研究・イノベーションと倫理——，電子情報通信学会誌，106巻，3号（2023年3月号），（2023年）（現在印刷中）
② 雑誌投稿等 著者名、論文題名、誌名、巻数、号数、はじめのページーおわりのページ（出版年）
③ 講演・口頭発表 発表者名、演題、発表学会等又は要旨集等名、はじめのページーおわりのページ（発表年．月）
1. <u>佐々木洋</u>「AIと作家性」 順正学園学術研究交流会（2023年3月） 2. <u>大谷卓史</u>，情報倫理学者からの批判（ナッジは邪悪か？問題にするに足らないか？——倫理学者・情報倫理学者・法哲学者らの対話——），応用哲学会第14回研究大会（2022年．5月）
④ 著書・作品等 著者名、書名、版表示、出版社（出版年） 作者名、作品名、作品発表場所等（発表年．月）
1. <u>平見勇雄</u> 「Gilbertmania」エイチアイプロジェクト 2022年8月22日 単行本
⑤ その他の研究業績
1. <u>大谷卓史</u>・大澤博隆・壁谷彰慶・神崎宣次・久木田水生・西條玲奈（翻訳），倫理的意思決定およびインターネット研究：AoIR 倫理作業委員会の勧告，2022年9月16日，https://researchmap.jp/wysiwyg/file/download/203837/335599 2. <u>大谷卓史</u>・大澤博隆・壁谷彰慶・神崎宣次・久木田水生・西條玲奈（翻訳），倫理的意思決定とインターネット研究：AoIR 倫理作業委員会の勧告（2.0版），2022年9月16日，https://researchmap.jp/wysiwyg/file/download/203837/335601 3. <u>大谷卓史</u>・壁谷彰慶・大澤博隆・神崎宣次・久木田水生・西條玲奈・吉永敦征（翻訳），インターネット研究：倫理ガイドライン 3.0（AoIR IRE 3.0）インターネット研究学会，2022年9月16日，https://researchmap.jp/wysiwyg/file/download/203837/335601

4. 多川孝央（座長）・小川賢・大谷卓史（企画立案）・吉濱佐知子・辰己丈夫ほか（大谷卓史・鈴木大助・吉永敦征・藤井秀之・橘雄介企画立案・運営等），シンポジウム「倫理綱領をアップデートする：2 学会倫理綱領改訂とその普及協力」，電子情報通信学会技術と社会・倫理研究会（完全オンライン開催）2022 年 7 月 19 日.
5. 加藤尚徳・藤井秀之・壁谷彰慶・大谷卓史（座長）（大谷卓史・鈴木大助・吉永敦征・藤井秀之・橘雄介企画立案・運営等），シンポジウム「『Ctrl+Z 忘れられる権利』合評会」，電子情報通信学会技術と社会・倫理研究会（完全オンライン開催）2022 年 11 月 18 日.
6. 多川孝央・小川賢・高橋克巳・辰己丈夫・中園長新・秋山満昭（大谷卓史・鈴木大助・吉永敦征・藤井秀之・橘雄介企画立案・運営等），シンポジウム「技術と倫理をめぐる対話と倫理綱領事例集：倫理綱領改訂と 2 学会共同倫理綱領事例集制作」，電子情報通信学会技術と社会・倫理研究会（福岡工業大学，オンライン開催）2022 年 12 月 4 日.
7. 小川賢・吉濱佐知子・辰己丈夫・村上祐子・森下壮一郎・長谷川彩子・秋山満昭・久木田水生・大谷卓史（座長），パネルディスカッション「「使える」倫理綱領をつくる：2 学会倫理綱領改訂の現在とこれから」，電子情報通信学会 2023 年総合大会（芝浦工業大学，オンライン開催）2023 年 3 月 10 日.
8. 大庭弘継・島岡政基・荻野司・辰己丈夫・大谷卓史（座長）（大谷卓史・鈴木大助・吉永敦征・藤井秀之・橘雄介企画立案・運営等），シンポジウム「サイバーセキュリティの研究と社会実装の ELSI：倫理綱領から考える」，電子情報通信学会技術と社会・倫理研究会（前橋工科大学，オンライン開催）2023 年 3 月 17 日.
9. 今村俊介「2022 年春期入学生用 ICT 活用ガイドブック学生版」監修（編集代表）（2022 年 4 月）

令和4年度 保健福祉研究所 研究活動実績報告

① 学術論文 著者名、論文題名、誌名、巻数、号数、はじめのページーおわりのページ（出版年）
1. 白高娃 <u>服部俊夫</u> 吉備国際大学の中のSDGs教育 吉備国際大学 保健福祉研究所紀要 第23号 25-30 ページ (2022) 2. <u>Toshio Hattori</u>, Yugo Ashino Possibility to open up new areas by COVID-19 infection. Reports 5. 2. 16, 2022
② 雑誌投稿等 著者名、論文題名、誌名、巻数、号数、はじめのページーおわりのページ（出版年）
1. <u>Hattori T</u>, Galectins Their network and roles in infection/immunity/tumor growth control 2021 Biomolecules 12, 9, 1255-8, 2022 2. <u>Hattori T</u>, Chagan-Yasutan H, Koga S, Yanagihara Y, Tanaka I, Seminar lessons: Infectious diseases associated with and causing disaster. Reports. 5. 1. 7-20, 2022 3. Ashino Y, Shirato Y, Yaegashiwa M, Yamanouchi S, Miyakawa N, Ando K, Sakurada Y, Chagan-Yasutan Y, <u>Hattori T</u>. A case of COVID-19 with acute exacerbation after anti-inflammatory treatment. Reports. 5. 2. 24-33, 2022 4. <u>石田敦</u>、スーパービジョンのいのちの電話相談員への応用に関する問題ー相談員の非専門職業家ボランティアという立場に関連してー、吉備国際大学研究紀要（人文・社会科学系）,33号, 1-11 ページ(2023-03-22)
③ 講演・口頭発表 発表者名、演題、発表学会等又は要旨集等名、はじめのページーおわりのページ（発表年. 月）
1. <u>Toshio Hattori</u>, MCPs in disaster-related infectious diseases, Indo-Japanese Symposium on management of infectious diseases: Role of matricellular proteins (MCPs) (2022, 9月) Pune India
④ 著書・作品等 著者名、書名、版表示、出版社（出版年） 作者名、作品名、作品発表場所等（発表年. 月）
⑤ その他の研究業績
1. JICA 中国&岡山県 草の根事業紹介 岡山国際交流 No.148, 2022 <u>服部俊夫</u> エイズや結核 治療に力 中国新聞セレクト 12月1日 2022

第6部

令和4年度 科学研究費助成事業
及び

補助、助成、受託、寄附、共同研究

令和4年度 科学研究費

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）

保健師養成機関における地域防災対策推進のための教育ガイドラインの作成

課題番号：19K11289

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：高尾 茂子 吉備国際大学，保健医療福祉学部，准教授

学内研究分担者：中瀬 克己 吉備国際大学，保健医療福祉学部，教授

福岡 美和 吉備国際大学，保健医療福祉学部，准教授

澤田 和子 吉備国際大学，保健医療福祉学部，講師

横溝 珠美 吉備国際大学，保健医療福祉学部，講師

研究期間（年度）：2019-04-01 – 2023-03-31

培養神経細胞を用いた寒冷刺激効果の分子細胞生物学的解析

課題番号：19K11404

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：井上 茂樹 吉備国際大学，保健医療福祉学部，准教授

研究期間（年度）：2019-04-01 – 2023-03-31

卒前と卒後を連続したリハビリテーション技能の育成に関する評価ツールの開発と検証

課題番号：19K10570

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：平上 二九三 吉備国際大学，保健福祉研究所，準研究員

学内研究分担者：齋藤 圭介 吉備国際大学，保健医療福祉学部，教授

井上 茂樹 吉備国際大学，保健医療福祉学部，准教授

原田 和宏 吉備国際大学，保健医療福祉学部，教授

井上 優 吉備国際大学，保健福祉研究所，準研究員

研究期間（年度）：2019-04-01 – 2023-03-31

発達障害のある少年院在院者の保護者と教官に対するペアレント・トレーニングの有効性

課題番号：19K03303

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：藤原 直子 吉備国際大学，心理学部，准教授

研究期間（年度）：2019-04-01 – 2023-03-31

身体運動に伴う主観的末梢感覚抑制に関するメカニズムを探る

課題番号：20K11455

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：高原 皓全 吉備国際大学, 社会科学部, 講師

学内研究分担者：山口 英峰 吉備国際大学, 社会科学部, 教授

研究期間（年度）：2020-04-01 – 2023-03-31

透析後の止血トレーニング装置の開発－安全で確実な止血技術の早期習得を目指した試み

課題番号：20K10749

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：市村 美香 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 講師

研究期間（年度）：2020-04-01 – 2023-03-31

「気になる妊産婦」の捉え方と虐待予防連携－ハイブリッドモデルを用いた概念分

課題番号：20K11148

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：横溝 珠実 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 講師

研究期間（年度）：2020-04-01 – 2023-03-31

信念対立解明アプローチに基づくストレス低減プログラムの開発

課題番号：20K03168

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：京極 真 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 教授

学内研究分担者：寺岡 睦 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 講師

研究期間（年度）：2020-04-01 – 2024-03-31

イネ巨大胚変異体を利用した胚－胚乳間相互作用における胚側要因の解明

課題番号：20K05975

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：桧原 健一郎 吉備国際大学, 農学部, 准教授

研究期間（年度）：2020-04-01 – 2023-03-31

施設入所高齢者が自分らしく生活するための支援技術としての園芸活動マニュアルの開発

課題番号：20K19434

研究種目：若手研究

研究代表者：三宅 優紀 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 講師

研究期間（年度）：2020-04-01 – 2023-03-31

筋内脂肪からみたサルコペニアおよびフレイルの予防と改善に関する研究

課題番号：21K11512

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：山口 英峰 吉備国際大学, 社会科学部, 教授

学内研究分担者：高原 皓全 吉備国際大学, 社会科学部, 講師

研究期間（年度）：2021-04-01 – 2026-03-31

経頭蓋直流電気刺激と末梢神経機能的電気刺激による皮質脊髄路促通効果の研究

課題番号：21K11234

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：河村 顕治 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 教授

学内研究分担者：井上 茂樹 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 准教授

研究期間（年度）：2021-04-01 – 2024-03-31

ICTを導入したハイブリッド型支援のフレイル予防の有効性と社会インパクトの評価

課題番号：21K10340

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：井上 優 吉備国際大学, 保健福祉研究所, 準研究員

研究期間（年度）：2021-04-01 – 2024-03-31

地理情報システム（GIS）を活用した地域アセスメント手法の構築

課題番号：22K02085

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：黒宮 亜希子 吉備国際大学, 社会科学部, 准教授

研究期間（年度）：2022-04-01 – 2025-03-31

PTSD の恐怖記憶の消去障害に関与する RNA メチル化機構の障害解明と治療法開発

課題番号：22K07568

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：森信 繁 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 教授

研究期間（年度）：2022-04-01 – 2025-03-31

いのちの電話のボランティア活動に対するスーパービジョンについての研究

課題番号：22K02054

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：石田 敦 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 教授

研究期間（年度）：2022-04-01 – 2025-03-31

発達障害等のある少年院在院者の支援者に対するペアレント・トレーニングの実証的研究

課題番号：22K03187

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：藤原 直子 吉備国際大学, 心理学部, 教授

研究期間（年度）：2022-04-01 – 2025-03-31

研究分担：科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）

高校生の進路選択と生活意識に関する実証的研究：学校パネル調査による長期変動の把握

課題番号：20H01649

研究種目：基盤研究(B)

研究代表者：尾嶋 史章 同志社大学, 社会学部, 教授

学内研究分担者：稲元 洋輔 吉備国際大学, 社会科学部, 助教

研究期間（年度）：2020-04-01 – 2024-03-31

力発揮調整に伴う脊髄 α 運動ニューロンの興奮性動態の解明

課題番号：20K11454

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：関 和俊 流通科学大学, 人間社会学部, 准教授

学内研究分担者：高原 皓全 吉備国際大学, 社会科学部, 講師

山口 英峰 吉備国際大学, 社会科学部, 教授

研究期間（年度）：2020-04-01 – 2023-03-31

昭和期日本における青年期教育の地域史—エリート育成／ノン・エリート教育の帰結—

課題番号：20H01624

研究種目：基盤研究(B)

研究代表者：安藤 耕己 山形大学, 地域教育文化学部, 教授

学内研究分担者：倉知 典弘 吉備国際大学, 社会科学部, 講師

研究期間（年度）：2020-04-01 – 2024-03-31

微振動を用いた新しい末梢静脈拡張技術の開発と評価

課題番号：22K10635

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：佐々木 新介 岡山県立大学, 保健福祉学部, 准教授

学内研究分担者：市村 美香 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 講師

研究期間（年度）：2022-04-01 – 2026-03-31

安心・安全の確保を目的とした日本人旅行者のリスク行動に関する実証研究

課題番号：17K02111

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：山川 路代 岐阜大学, 大学院医学系研究科, 助教

学内研究分担者：中瀬 克己 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 教授

研究期間（年度）：2017-04-01 – 2023-03-31

優先順位に基づく保健活動を推進するスクラップ&ビルド実践ガイドラインの開発

課題番号：19K11183

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：小出 恵子 四天王寺大学, 看護学部, 准教授

学内研究分担者：中瀬 克己 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 教授

研究期間（年度）：2019-04-01 – 2023-03-31

慢性疼痛患者に対するライフリテラシーを用いたソーシャルワークのプログラム開発

課題番号：20K02305

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：小原 真知子 日本社会事業大学, 社会福祉学部, 教授

学内研究分担者：原田 和宏 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 教授

研究期間（年度）：2020-04-01 – 2023-03-31

DNA メチル化障害とその量的形質遺伝子座を用いた健康支援研究のモデル開発

課題番号：22K18403

研究種目：挑戦的研究(開拓)

研究代表者：井原 一成 弘前大学, 医学研究科, 教授

学内研究分担者：森信 繁 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 教授

研究期間（年度）：2022-06-30 – 2025-03-31

社会的ケアを要する高齢者の在宅生活維持に資する QOL 規定因子の実証的解明

課題番号：20K02087

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：中村 裕美 埼玉県立大学, 保健医療福祉学部, 教授

学内研究分担者：京極 真 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 教授

研究期間 (年度)：2020-04-01 – 2024-03-31

リハビリテーションにおける活動と参加レベルの行動変容を促す目標設定アプリの開発

課題番号：19H03875

研究種目：基盤研究(B)

研究代表者：友利 幸之介 東京工科大学, 医療保健学部, 准教授

学内研究分担者：京極 真 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 准教授

研究期間 (年度)：2019-04-01 – 2023-03-31

実践的知識のための思考語いに基づく研修法の構築

課題番号：22H03704

研究代表者：松田 憲幸 和歌山大学, システム工学部, 准教授

学内研究分担者：京極 真 吉備国際大学, 保健医療福祉学部, 教授

研究期間 (年度)：2022-04-01 – 2027-03-31

PBIS の日本型モデルの作成とその効果検討

課題番号：22K02562

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：寺田 和永 広島文教大学, 人間科学部, 准教授

学内研究分担者：津川 秀夫 吉備国際大学, 心理学部, 教授

研究期間 (年度)：2022-04-01 – 2025-03-31

家庭中心型ペアレント・トレーニングの実施者養成動画研修プログラムの開発と評価

課題番号：22K02795

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：神山 努 横浜国立大学, 教育学部, 准教授

学内研究分担者：藤原 直子 吉備国際大学, 心理学部, 准教授

研究期間 (年度)：2022-04-01 – 2025-03-31

支援が必要な子どもと親のための光・音・匂い環境を用いた『親子の遊び空間』の開発

課題番号：20K03011

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：井上 和久 大谷大学, 文学部, 准教授

学内研究分担者：橋本 翠 吉備国際大学, 心理学部, 准教授

研究期間（年度）：2020-04-01 – 2023-03-31

転移因子の活性を制御するエピゲノムリプログラミング機構の解明

課題番号：21K05519

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：築山 拓司 近畿大学, 農学部, 准教授

学内研究分担者：谷坂 隆俊 吉備国際大学, 農学部, 教授

研究期間（年度） 2021-04-01 – 2024-03-31

原子力災害被災地に適用される農林水産業の予防原則と市民評価

課題番号：22H02447

研究種目：基盤研究(B)

研究代表者：中村 哲也 共栄大学, 国際経営学部, 教授

学内研究分担者：濱島 敦博 吉備国際大学, 農学部, 准教授

研究期間（年度）：2022-04-01 – 2025-03-31

軍用地コンバージョンの国際比較：沖縄の基地移転と跡地再開発をめぐる地域社会研究

課題番号：19H01581

研究種目：基盤研究(B)

研究代表者：難波 孝志 大阪経済大学, 情報社会学部, 教授

学内研究分担者：平井 順 吉備国際大学, 農学部, 准教授

研究期間（年度）：2019-04-01 – 2022-03-31

ポストトゥルースの時代における新しい情報リテラシーの学際的探求

課題番号：19H00518

研究種目：基盤研究(A)

研究代表者：久木田 水生 名古屋大学, 情報学研究科, 准教授

学内研究分担者：大谷 卓史 吉備国際大学, アニメーション文化学部, 准教授

研究期間（年度）：2019-04-01 – 2023-03-31

非薬物的介入を行っても効果が得られない難治性膝痛を有す高齢者の個人特性の解明

課題番号：20K11230

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：田中 亮 広島大学，人間社会科学研究科(総)，准教授

学内研究分担者：井上 優 吉備国際大学，保健福祉研究所，準研究員

研究期間（年度）：2020-04-01 – 2023-03-31

ポストコロナ社会を見据えた地域高齢者の生活関連活動の実態と関連因子の解明

課題番号：22K02171

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：平上 尚吾 兵庫医科大学，リハビリテーション学部，教授

学内研究分担者：井上 優 吉備国際大学，保健福祉研究所，準研究員

研究期間（年度）：2022-04-01 – 2027-03-31

中枢性疾患の身体を動かす抵抗感を体感できるオンラインリハビリテーション教材の開発

課題番号：21K18520

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究代表者：米津 亮 東京家政大学，健康科学部，教授

学内研究分担者：井上 優 吉備国際大学，保健福祉研究所，準研究員

研究期間（年度）：2021-07-09 – 2024-03-31

研究分担：厚生労働科学研究費補助金

エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究

課題番号：22FA03011

事業名：循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

研究代表者：田中 亮 広島大学，人間社会科学研究科(総)，准教授

学内研究分担者：井上 優 吉備国際大学，保健福祉研究所，準研究員

研究期間（年度）：2022-04-01 – 2025-03-31

令和4年度 補助、助成、受託、寄付、共同研究等

名称【期間】 おかやま子育てカレッジ地域貢献事業 補助金【R4.3～R5.3】
研究テーマ等 吉備国際大学たかはし子育てカレッジ
学部等/代表者 心理学部 教授 栗田 喜勝

名称【期間】 一般社団法人 日本禁煙学会 助成金【R3.4～R5.3】
研究テーマ等 中学生のタバコに対する認識と心理教育による改善
ー防煙子教育とストレスマネジメント教育の効果検証ー
学部等/代表者 心理学部 准教授 藤原 直子

名称【期間】 公益財団法人 ウェスコ学術振興財団 助成金【R4.6～R5.3】
研究テーマ等 就学前発達障害児における口腔機能発達を目指した器具の開発
学部等/代表者 保健医療福祉学部 准教授 森下 元賀

名称【期間】 やずや食と健康研究所 助成金【R2.12～R5.11】
研究テーマ等 地域在住高齢者に対する口腔嚥下機能向上のための
訓練器具の効果の検証
学部等/代表者 保健医療福祉学部 准教授 森下 元賀

名称【期間】 公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団 助成金【R3.9～R5.3】
研究テーマ等 伝統的発酵酵素ドリンクに基づく「淡路島ミキ」の
開発・安定生産・保健機能解析
学部等/代表者 農学部 助教 林 将也

名称【期間】 公益財団法人 中国電力技術研究財団 助成金【R4.4～R5.3】
研究テーマ等 中国電力送電線に流れる地磁気誘導電流と地磁気嵐の定量関係
学部等/代表者 農学部 教授 橋本 久美子

名称【期間】 公益財団法人 両備糧園記念財団 助成金【R4.10～R5.9】

研究テーマ等 AI 技術を用いた変形性関節症の定量的評価法の確立

学部等/代表者 保健医療福祉学部 教授 森 芳史

名称【期間】 独立行政法人 国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業

受託金【R2.12～R5.4】

研究テーマ等 マハシュトラ州（インド）における HIV/TB の治療成績改善プロジェクト

学部等/代表者 保健医療福祉学部 教授 服部 俊夫

名称【期間】 独立行政法人 国際協力機構（JICA）日系社会研修員受入事業

受託金【R4.8～R4.12】

研究テーマ等 日系社会地域資源の保存技術と活用

学部等/代表者 外国語学部 教授 畝 伊智朗

名称【期間】 国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）社会創造事業 探索加速型

受託金【R4.10～R6.3】

研究テーマ等 開花時刻調節で変わる未来の作物生産

学部等/担当者 農学部 准教授 桧原 健一郎

名称【期間】 Renaissance 株式会社 受託金【R1.5～R5.3】

研究テーマ等 有機酸資材「ER-HL1」の作物栽培における有効性に関する研究

学部等/代表者 農学部 准教授 村上 二郎

名称【期間】 高梁市 高梁川流域連携中枢都市圏 中高年スポーツ事業

受託金【R4.6～R5.3】

研究テーマ等 健康スポーツ講座、フォローアップ講座、体力測定、フィットネス講座

学部等/代表者 社会科学部 教授 山口 英峰

名称【期間】 南あわじ市大学連携推進協議会 受託金【R4.4～R5.3】
研究テーマ等 4つの研究会が課題とする研究・連携事業
学部等/代表者 農学部 教授 相野 公孝

名称【期間】 南あわじ地域世界・日本農業遺産推進協議会 受託金【R4.4～R5.3】
研究テーマ等 淡路中甲高および他品種の物理的性質の評価方法の開発と
品種間のテクスチャー比較
学部等/代表者 農学部 講師 金沢 功

名称【期間】 フマキラー株式会社 受託金【R4.8～R5.3】
研究テーマ等 新規素材の植物病害に対する防除効果の検証
学部等/代表者 農学部 准教授 村上 二郎

名称【期間】 兵庫県植物防疫協会 受託金【R4.8～R5.3】
研究テーマ等 未登録殺菌剤の防除効果に関する研究
学部等/代表者 農学部 教授 相野 公孝

名称【期間】 南あわじ市（インターネットアンケート調査） 受託金【R4.9～R5.2】
研究テーマ等 「淡路島たまねぎ」の認知調査
学部等/代表者 農学部 准教授 濱島 敦博

名称【期間】 笠岡市 受託金【R4.9～R5.3】
研究テーマ等 介護予防事業評価のための調査・分析事業
学部等/代表者 保健医療福祉学部 講師 横溝 珠美

名称【期間】 医療法人 済生の森 寄付金【R4.4～R5.3】
学部等/代表者 保健医療福祉学部 教授 森 芳史

名称【期間】 国立極地研究所 共同研究【R2.4～R5.3】

研究テーマ等 低緯度電離圏電場の太陽風変動依存性

学部等/代表者 農学部 教授 橋本 久美子

名称【期間】 国立研究開発法人 国際農林産業研究センター 共同研究【R4.4～R8.3】

研究テーマ等 イネの開花時刻関連遺伝子資源の利用を促進するための基礎研究

学部等/代表者 農学部 准教授 桧原 健一郎

名称【期間】 岡山大学 資源植物科学研究所 共同研究【R4.4～R5.3】

研究テーマ等 オオムギおよびイネの形態形成過程における比較分子遺伝学的解析

学部等/代表者 農学部 准教授 桧原 健一郎

名称【期間】 岡山大学 資源植物科学研究所 共同研究【R4.4～R5.3】

研究テーマ等 コムギ新規休眠関連遺伝子の解析

学部等/代表者 農学部 准教授 氷見 英子

第7部

点検・評価結果

吉備国際大学 研究部門 自己点検・自己評価

吉備国際大学教育開発・研究推進中核センター 研究推進部門長
副学長（研究担当）井勝久喜

令和4年度は学術論文82件、雑誌投稿等20件、講演・口頭発表165件、著書・作品10件の研究成果が発表された。学術論文については令和3年度の98件から減少しているものの、講演・口頭発表は令和3年度の116件から大幅に増加している。口頭発表から学術論文の作成へとつなげることが課題である。研究成果発表については人文科学系と自然科学系で違いがあるため、発表数だけで評価することはできないが活発な研究活動が行われたと評価できる。なお、各教員の研究活動については、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）情報基盤事業部が提供しているデータベース型研究者総覧 researchmap に業績を登録して広く情報を公開している。

科学研究費は新規の応募24件に対して採択件数は4件、新規応募に対する採択率は16.7%であり、採択率の向上を目指した取組が必要である。なお、継続を含めた採択件数は14件であった。また、本学の教員が科学研究費の分担研究者として21件の研究が進められている。一方、科学研究費補助金以外では、研究助成金・受託研究等23件が助成を受けて研究が進められていることから、全体的には研究費の獲得も評価することができる。

学外との研究連携としては、リサーチパーク研究展示発表会にて1件の報告が行われた。大学としての産学協同研究ができていない点は今後の課題として残るが、それぞれの教員が自治体・産業界・他大学等と産学官連携研究を推進している。

学内の研究活性化を目的として、令和4年度は5件の研究について共同研究費を配分した。加えて、SDGs教育研究推進経費1件、地域貢献教育研究推進経費1件に対しての助成を行い研究の活性化を図った。

研究活動の活性化と研究協力の推進を目的として、順正学園内で行われている研究活動について研究発表を行う「順正学園学術研究交流会」を開催した。学術研究交流会では、吉備国際大学から5件、九州保健福祉大学から4件の研究成果発表が行われた。学術研究交流会は学内の研究活動の活性化に貢献することから、来年度以降も継続して開催する予定である。

コンプライアンス教育・研究倫理教育については、研修会を開催すると共に、10月を「研究活動における不正行為防止及びコンプライアンス推進月間」とし、学長が研究規範の遵守等についてメッセージを発信した。また、学生に対しては演習科目等の授業で研究倫理教育を行うことをシラバスに記載し、演習科目等において各学科が研究倫理教育を行った。

個人情報保護法の改正に伴い「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が改訂されたことに伴い「吉備国際大学「人を対象とする生命科学・医学系研究」倫理規程」を改訂した。また「吉備国際大学倫理審査委員会規程」を改訂した。

以上のように、令和4年度吉備国際大学における研究活動は活発に行われたが、研究成果の社会への還元、学際的な取り組みの推進という面ではさらなる努力が必要である。今後も研究活動の推進について努力していきたい。

令和4年度 吉備国際大学 研究部門評価

川崎医療福祉大学 教授
評価委員 水子 学

1. 社会展開型研究

高梁市のコミュニティ全体に焦点を当てたプロジェクト研究や農業で駆除の対象となる雑草の資源化、模擬避難訓練による防災・減災意識の醸成など、地域の社会・生産活動の発展に寄与する研究活動が行われており、地域振興に関して高く評価できる。

2. 世界展開型研究

各々の専門分野における社会的ニーズを的確に把握し、そのニーズに合致する研究知見を学術論文あるいは学術集会にて公表されていることについて高く評価できる。専門分野の枠組みを超えた発展的研究が展開されるための基盤が整ってきており、今後、さらに学際的研究が充実していくことを期待する。

3. 総合的評価

外部競争的研究資金による研究活動や各種助成等による研究活動も盛んにおこなわれているとともに、学術論文の公表及び学術集会での研究発表も積極的に取り組まれており、貴学の研究活動は、活発に行われていると総合評価できる。

4. 吉備国際大学における研究活動についてのご意見

実践的研究の成果について、専門分野の研究者だけでなく、書籍等の出版を通じて、一般の方々に伝達できると良い。

1. 社会展開型研究

どの研究も知の研究のみならず対象分野の発展・進化に寄与していると思います。
現職保育者の支援プログラムの実践開発は着実に進み、広がりが見られます。戦間期の社会教育は歴史の掘り起こしであり、その推移が気になります。マルトリートメント体験は、幼児虐待が増える現在の喫緊の課題であり、アセスメントツールの開発は期待が大きいです。薬剤性筋萎縮抑制に対する保存療法の検討及びγ-アミノ酪酸の種子休眠の研究は地道な研究ですが、継続・発展・実践が望まれます。

2. 世界展開型研究

国際連携によるエイズ結核患者へ取り組み、地道に研究を重ねて、病変に対応される貴重な実践です。

社会的ニーズに対応した模擬避難訓練、現在の課題でもあり、学生にとっても有意義な体験活動です。また、優勝旗の修復、オープン修理現場の公開は地域にとっては有難い取り組みだと思います。ミョウガ花蕾腐敗症、更なる比較追及を望みます。

SDGs教育研究、雑草の可能性をどう切り開いていくのか、今後の取り組みに期待が持てます。

新たな研究領域の開拓、リノベプロジェクトの取り組み、大学が地域再生にかかわっていく、困難が予想されますが、今後の活動の展開を期待しています。

3. 総合的評価

総合的に見て、持続的に、また、新しい取り組みも有り、研究活動が活発に行われていると思います。

更に、これらの研究が現場でどのように生かされていくのか、その報告も興味があるところ です。

4. 吉備国際大学における研究活動についてのご意見

なし

1. 社会展開型研究

第1部①：生涯にわたる人格形成を培う就学前教育に携わる保育者の資質・能力を高め、力量を向上する支援プログラムの開発は重要かつ意義深く、特に受容効力感の醸成は質の高い保育に繋がります。

②：これまで対象とされなかった分野に視点を当て、地域の活性化に繋げようとする着眼点が良いと思います。今後、成果を具体的にどのように活用していくのか、楽しみです。

第2部②：近年、各地のコミュニティ単位でも防災訓練が頻繁に行われていますが、ほとんどが健常者の避難行動における訓練です。今後、特に高齢者の心理に基づく意識変容と避難行動様式のプログラム等を構築し、教示してもらいたいです。

③：当センターの知見や特殊技術を生かして地道な作業が行われていることに、関係者や住民のみならず、多くの人がある成果に期待をしていると思います。さらに、作業公開は未知の人にとっても大変有益な機会になります。完成後は相撲・千代の富士ファンはもとより、多くの人に見てもらうとともに、地域振興の柱となることを期待します。

④：高知県のミョウガは生産量・品質とも日本一といわれていますが、作物被害は大敵で、この研究成果は生産者にとっては大いに有益であるとともに、他の作物への効果も期待されるところです。

第4部：「人と人をつなぐ」、「モノを再活用する」のキーワードで行われた2つのプログラムの成功は、過疎化に悩む中山間地域の活性化へ繋ぐ重要なヒントになるものです。今後の発展性に期待します。

2. 世界展開型研究

第1部③：女性だけの問題としてではなく、広く人権にもかかわる世界共通の課題であり、幼少期の虐待や暴力的行為等の撲滅とともに、新たな視点から家庭教育や学校教育、社会の在り方にもアプローチするものとして、成果と発展性に期待します。

④：進みゆく高齢化社会の中、健康寿命の延長は待ったなしの課題です。新しい視点での先進的研究の成果は大いに期待できるもので、他大学との連携のもとに新療法プログラムの開発にける熱意も強く伺えます。

⑤：日本の生産農家の課題解決に寄与するだけでなく、世界的な食糧事情の改善にも通ずるもので、今後の成果が大いに期待されます。

第2部①：難病治療という世界共通の課題に向かって国際的なネットワークで、専門性を十二分に発揮し挑戦を続けられています。成果と課題を踏まえ、更に新しい治療法の開発の可能性も示唆しておられ、今後の発展性と成果に大きな期待が持てます。

第3部：圃場の雑草を「アロマ」に変える。農家にとっては夢のようなことです。特に耕作放棄地が増えている中山間地域の田畑には大いに歓迎される研究です。成果は日本の農業の現況を大きく変化させるかもしれません。

3. 総合的評価

報告書からは研究の一端にしか触れることはできませんが、どれを取りましても先生方の熱意とひたむきな努力が十二分に感じられます。それぞれ、成果や課題も整理されており、今後の発展性や有用性が期待されるものばかりです。さらに、論文、雑誌投稿、講演・口頭発表、著書等の総数でも昨年度を上回っており本学の積極的な研究活動を感じました。

4. 吉備国際大学における研究活動についてのご意見

特になし

令和4年度 研究部門自己点検・自己評価委員

教育開発・研究推進中核センター	研究推進部門長	井勝 久喜
教育開発・研究推進中核センター	研究推進副部門長	原田 和宏
社会科学部	・ ・ ・ ・ ・	秀 真一郎 高原 皓全
保健医療福祉学部	・ ・ ・	掛谷 益子 森 芳史
		井上 茂樹 寺岡 睦
心理学部	・ ・ ・ ・ ・	津川 秀夫 宇都宮 真輝
農学部	・ ・ ・ ・ ・	相野 公孝
外国語学部	・ ・ ・ ・ ・	畝 伊智朗
アニメーション文化学部	・ ・ ・ ・	清水 光二
事務局	・ ・ ・ ・ ・	庶務課



輝け、自分。羽ばたけ、未来へ。

吉備国際大学

Kibi International University